

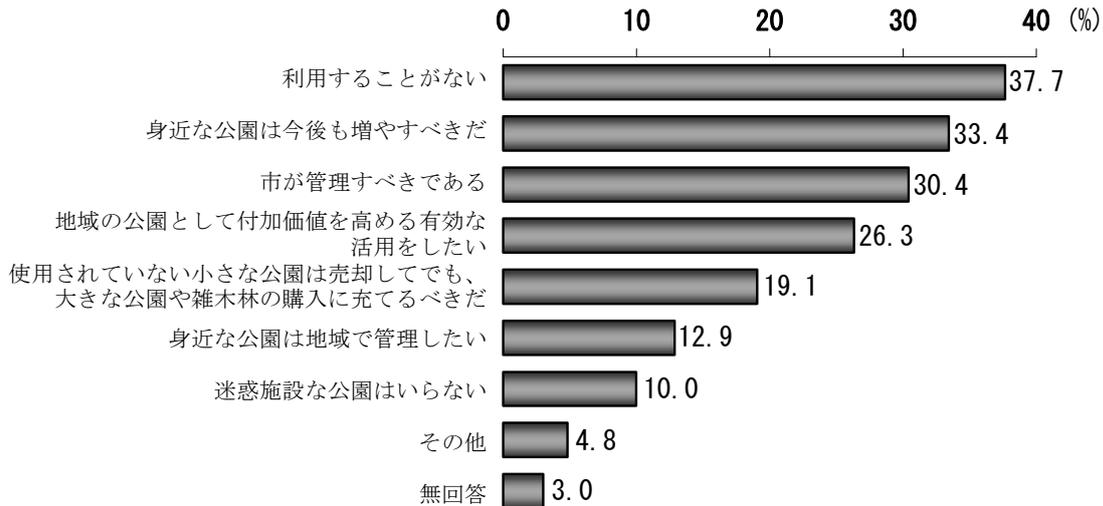
1 1 公園管理

(1) ミニ公園（児童遊園）の考え方

問 2 1 清瀬市立の公園等は、中央公園などの都市公園をはじめとして、約 100 か所地域に設置されていますが、お近くのミニ公園（児童遊園）についてどのようにお考えですか。次の中から 2 つまでお答えください。

[n=661]

<図 1 1 - 1 : ミニ公園（児童遊園）の考え方>



【全体】

ミニ公園（児童遊園）の考え方については、「利用することがない」が 37.7%と最も高く、次いで「身近な公園は今後も増やすべきだ」が 33.4%、「市が管理すべきである」が 30.4%、「地域の公園として付加価値を高める有効な活用をしたい」が 26.3%と続いている。

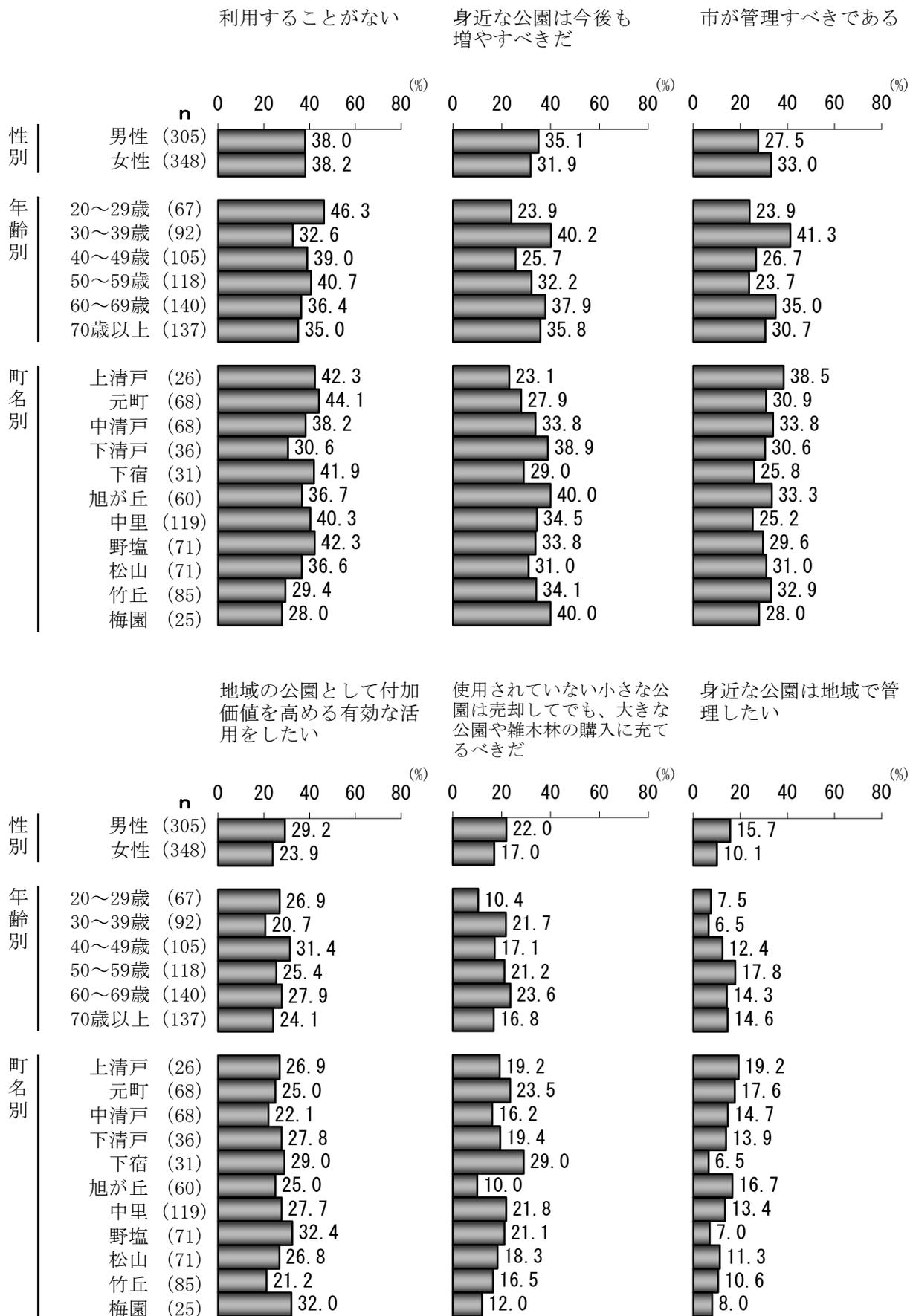
【性別・年齢別・町名別】

性別でみると、男性が上回っている項目が多いが、「市が管理すべきである」は女性（33.0%）、男性（27.5%）となっており、女性が 5.5 ポイント上回っている。

年齢別でみると、「身近な公園は今後も増やすべきだ」、「市が管理すべきである」は 30 歳代が 40.2%、41.3%と他の年齢層と比較して高くなっている。

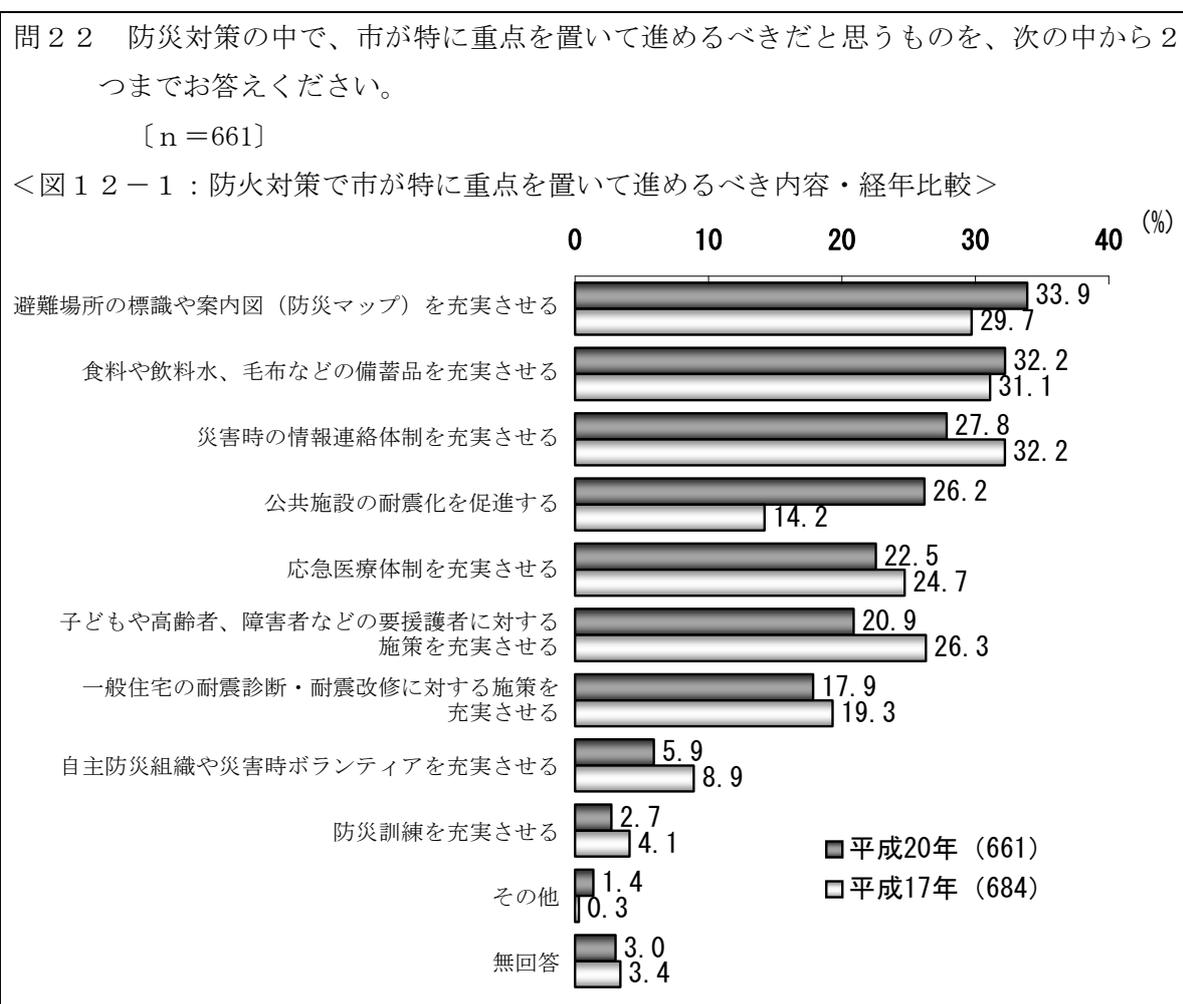
町名別でみると、「利用することがない」は、元町（44.1%）、上清戸（42.3%）、野塩（42.3%）、下宿（41.9%）、中里（40.3%）の 5 町で 4 割を超えている。

<図 1 1-2 : 性別・年齢別・町名別 : 上位 6 項目>



1 2 防災対策

(1) 防災対策で市が特に重点を置いて進めるべき内容



【全体・経年比較】

防災対策で市が特に重点を置いて進めるべき内容としては、「避難場所の標識や案内図(防災マップ)を充実させる」が 33.9%で最も高く、次いで「食料や飲料水、毛布などの備蓄品を充実させる」が 32.2%、「災害時の情報連絡体制を充実させる」が 27.8%と続いている。

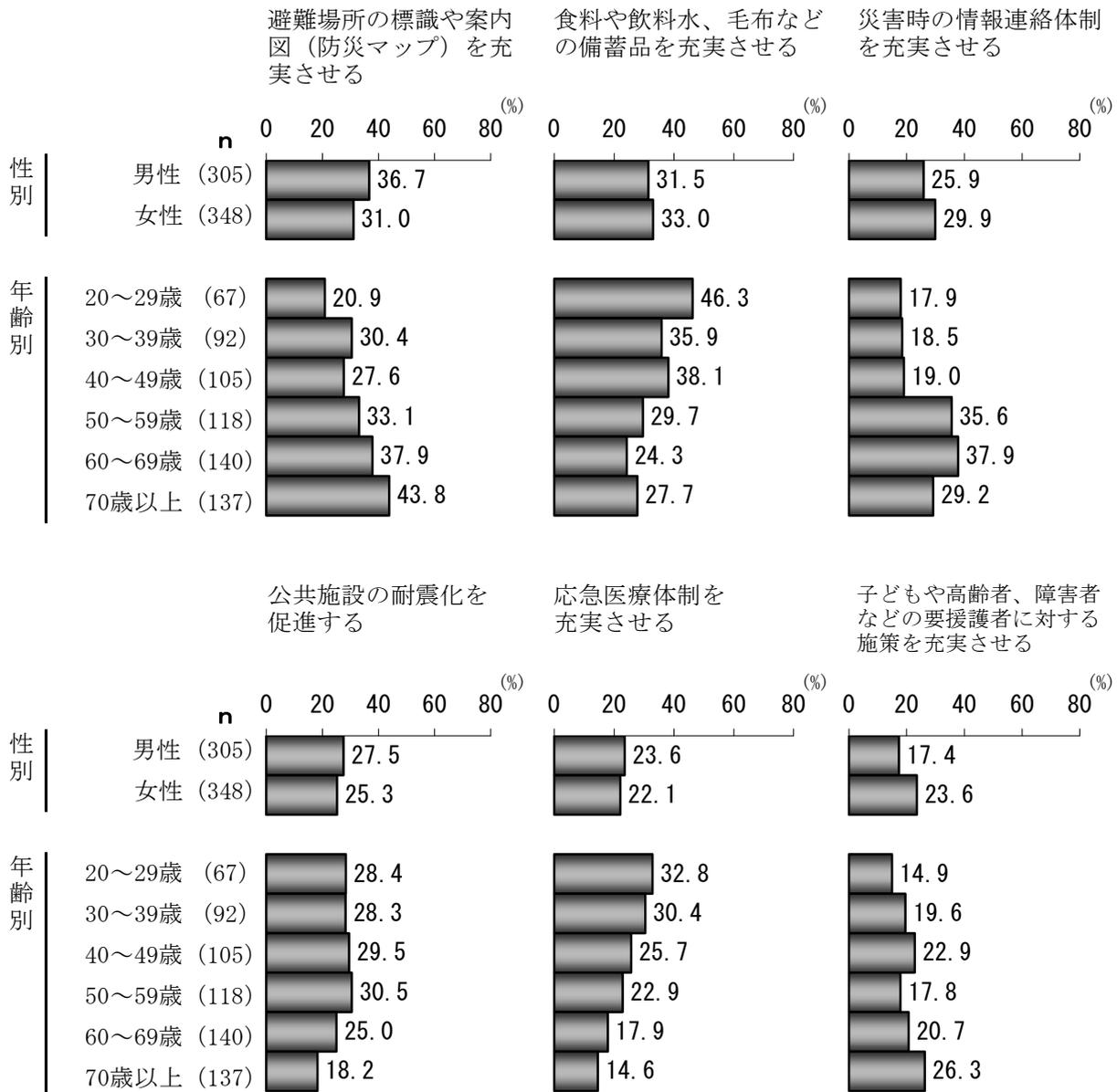
前回調査(平成 17 年)と比較すると、「災害時の情報連絡体制を充実させる」が 4.4 ポイント、「子どもや高齢者、障害者などの要援護者に対する施策を充実させる」が 5.4 ポイント減少し、「公共施設の耐震化を促進する」が 12.0 ポイント増加している。

【性別・年齢別】

性別で見ると、「避難場所の標識や案内図(防災マップ)を充実させる」が男性(36.7%)、女性(31.0%)となっており、男性が 5.7 ポイント上回っている。他方、「子どもや高齢者、障害者などの要援護者に対する施策を充実させる」が女性(23.6%)、男性(17.4%)となっており、女性が 6.2 ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「食料や飲料水、毛布などの備蓄品を充実させる」は20歳代が46.3%で最も高くなっている。また、「応急医療体制を充実させる」も20歳代(32.8%)が最も高く、年齢が上がるほど減少する傾向にある。

<図1 2-2 : 性別・年齢別 : 上位6項目>



1 3 ごみの減量とリサイクルの推進

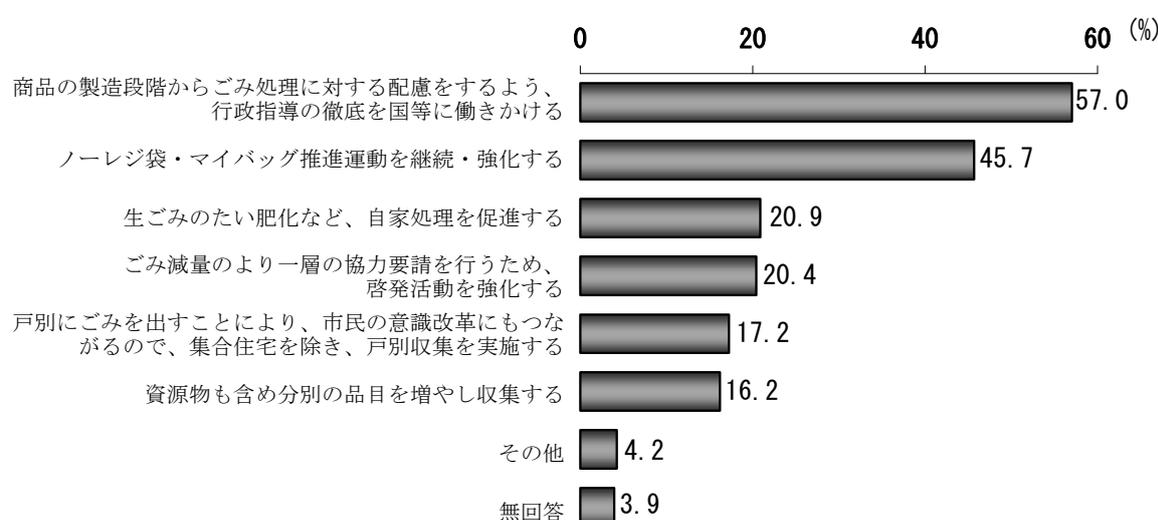
(1) ごみの減量対策で市が特に重点をおいて進めるべき内容

問 2 3 市では、ごみの減量とリサイクルの推進を目的に、指定袋制（有料）を導入し7年が経過しました。市民のみなさんのご協力で、ごみの減量に一定の効果が現れています。ごみ問題は最終処分場の延命化、さらには現代世代の環境負荷を未来世代に送らない資源循環型社会を目指し、今後も取り組まなければならない課題です。

ごみの減量対策として、市が特に重点をおいて進めるべきだと思うものを、次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図 1 3 - 1 : ごみの減量対策で市が特に重点をおいて進めるべき内容>



【全体】

ごみの減量対策で市が特に重点をおいて進めるべき内容は、「商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするよう、行政指導の徹底を国等に働きかける」が 57.0% で最も高く、次いで「ノーレジ袋・マイバッグ推進運動を継続・強化する」が 45.7%、「生ごみのたい肥化など、自家処理を促進する」が 20.9%、「ごみ減量のより一層の協力要請を行うため、啓発活動を強化する」が 20.4% と続いている。

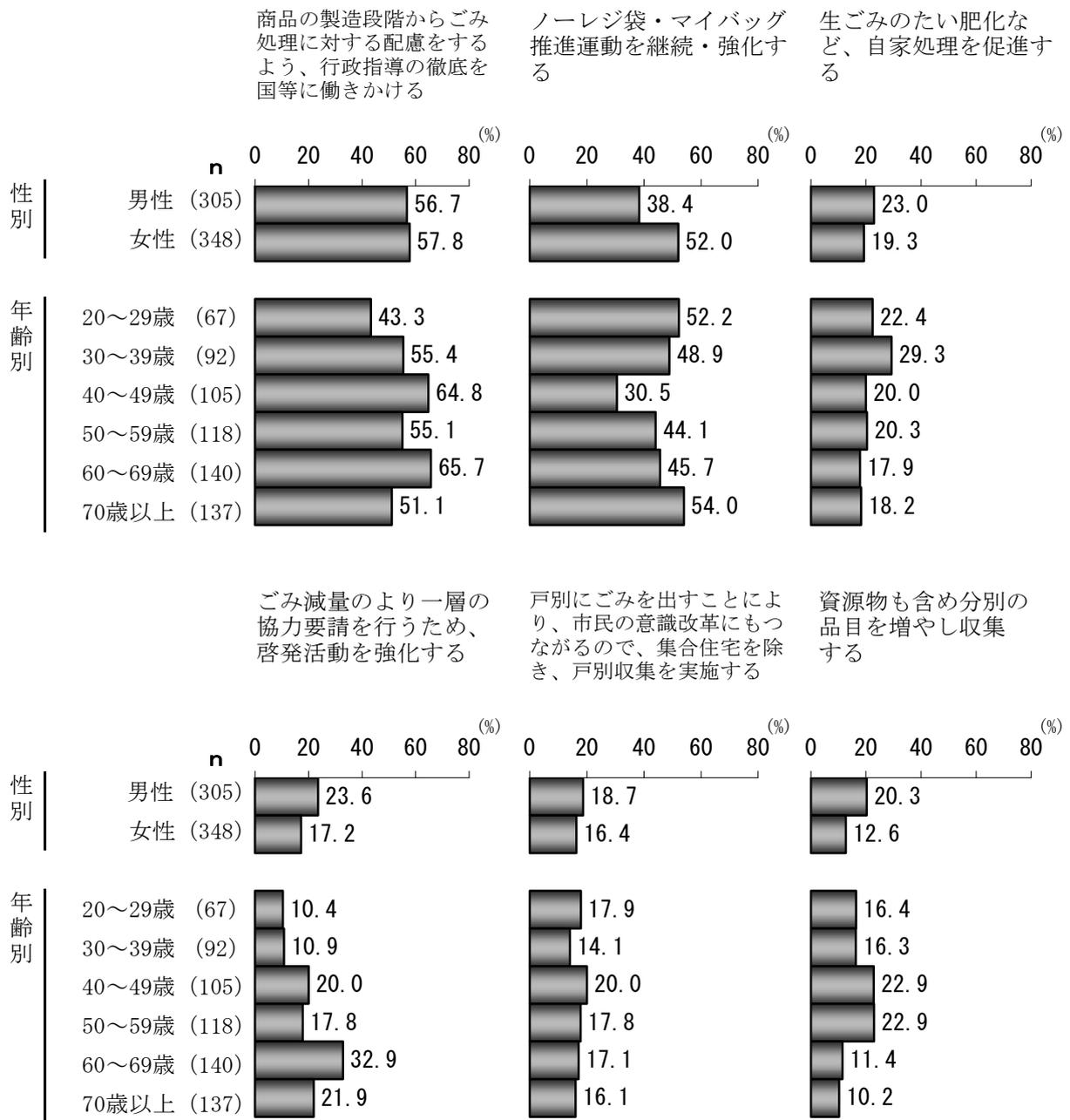
【性別・年齢別】

性別でみると、「ノーレジ袋・マイバッグ推進運動を継続・強化する」が女性（52.0%）、男性（38.4%）となっており、女性が 13.6 ポイント上回っている。

年齢別でみると、「商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするよう、行政指導の徹底を国等に働きかける」は 40 歳代（64.8%）、60 歳代（65.7%）が他の年齢層よりも高くなっている。

また、「ごみ減量のより一層の協力要請を行うため、啓発活動を強化する」は 60 歳代で 32.9% と他の年齢層よりも高くなっている。

<図 1 3 - 2 : 性別・年齢別>



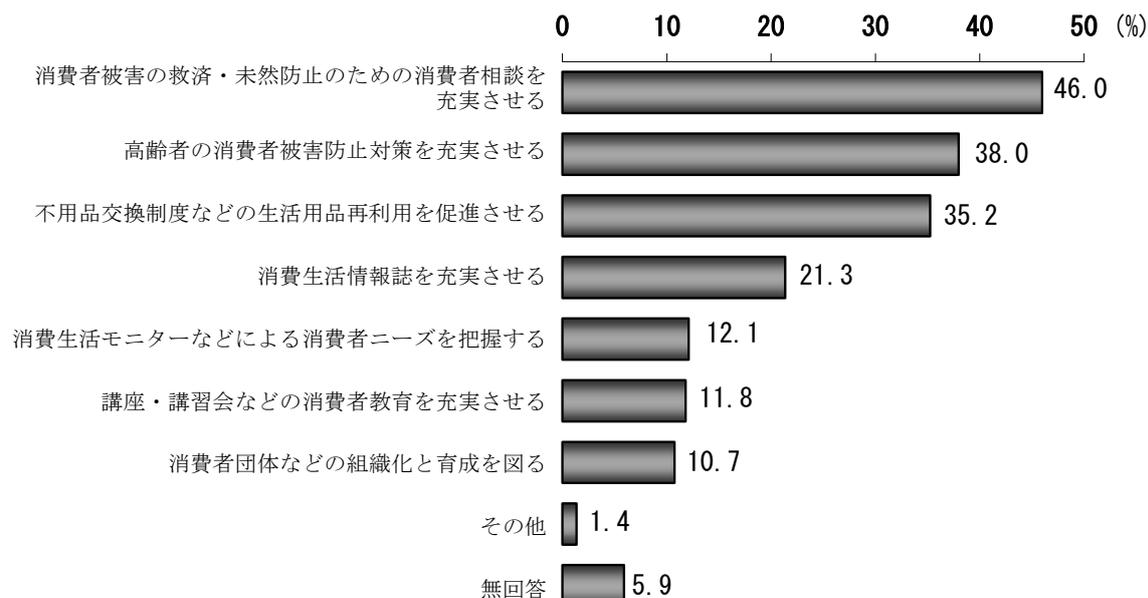
1.4 消費者対策

(1) 消費者保護対策で市が特に重点をおいて取り組むべき内容

問 2 4 市民の消費生活の安定のために消費者保護の充実が求められていますが、あなたは消費者保護対策のうち、市が特に重点をおいて取り組むべきと思われるものを、次の中から2つまでお答えください。

[n = 661]

<図 14-1：消費者保護対策で市が特に重点をおいて取り組むべき内容>



【全体】

消費者保護対策で市が特に重点をおいて取り組むべき内容としては、「消費者被害の救済・未然防止のための消費者相談を充実させる」が46.0%で最も高く、次いで「高齢者の消費者被害防止対策を充実させる」が38.0%、「不用品交換制度などの生活用品再利用を促進させる」が35.2%となっている。

<表 14-1：消費者保護対策で市が特に重点をおいて取り組むべき内容：経年比較>

順位	平成 14 年 [n = 652]	平成 17 年 [n = 684]	平成 20 年 [n = 661]
1 位	不用品交換制度の生活用品再利用を促進させる (51.4)	消費者被害の救済・未然防止のための消費者相談の充実 (50.0)	消費者被害の救済・未然防止のための消費者相談を充実させる (46.0)
2 位	消費生活相談を充実させる (37.4)	高齢者の消費者被害防止対策 (42.8)	高齢者の消費者被害防止対策を充実させる (38.0)
3 位	消費生活情報紙を発行する (37.3)	不用品交換制度の生活用品再利用を促進させる (33.5)	不用品交換制度などの生活用品再利用を促進させる (35.2)

【経年比較】

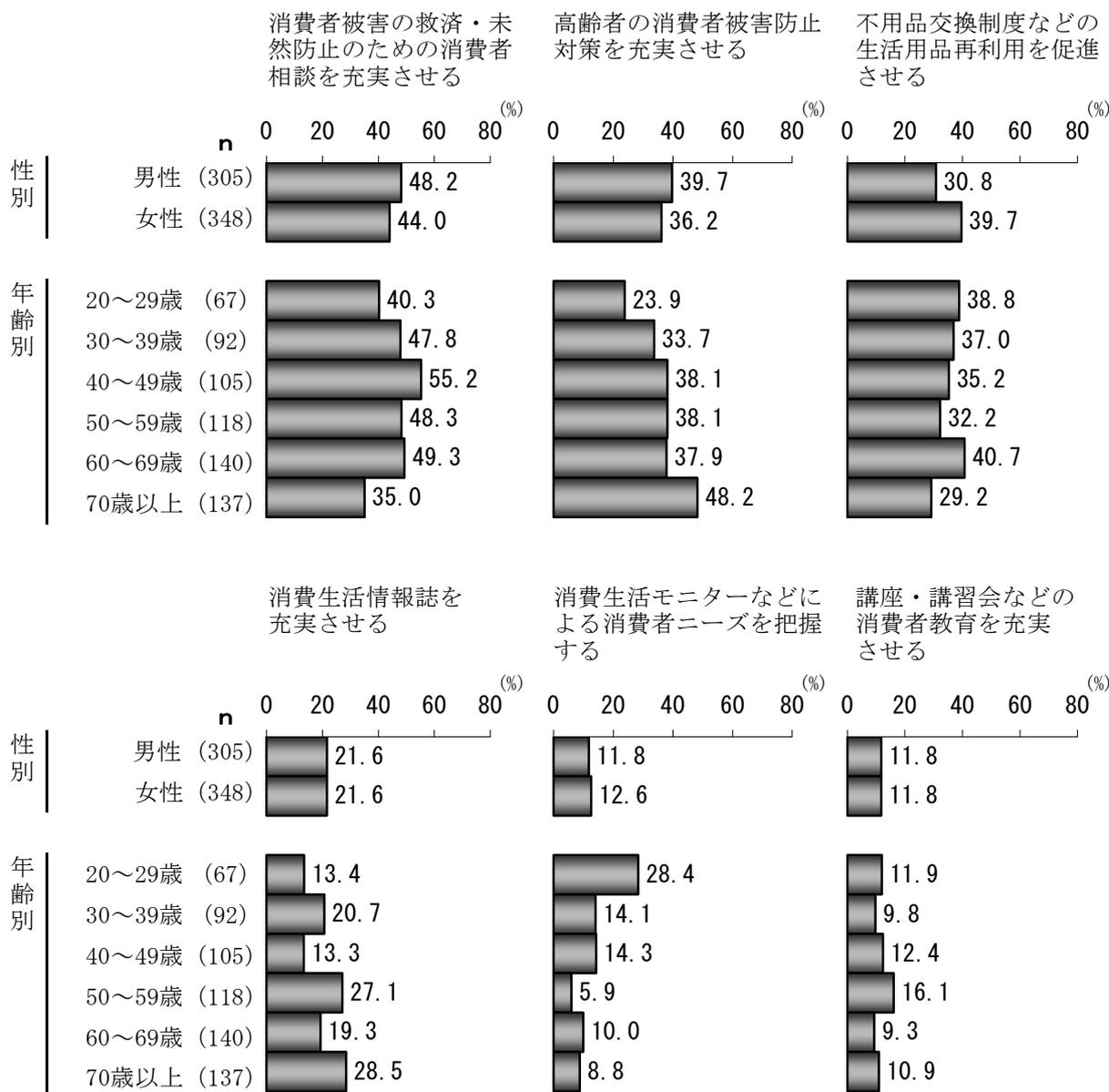
前回調査（平成 17 年）と比較すると、上位 3 項目に変化はみられないが、第 1 位の「消費者被害の救済・未然防止のための消費者相談を充実させる」は 4.0 ポイント、第 2 位の「高齢者の消費者被害防止対策を充実させる」は 4.8 ポイント減少している。

【性別・年齢別】

性別でみると、「不用品交換制度などの生活用品再利用を促進させる」が女性（39.7%）、男性（30.8%）となっており、女性が 8.9 ポイント上回っている。

年齢別でみると、「消費者被害の救済・未然防止のための消費者相談を充実させる」は 70 歳以上を除いた年齢層において高い数値を示しており、40 歳代が 55.2% で最も高くなっている。「高齢者の消費者被害防止対策を充実させる」は 70 歳以上が 48.2% で最も高く、年齢が下がるほど漸減する傾向にある。

< 図 1 4-2 : 性別・年齢別 : 上位 6 項目 >



1 5 高齢者対策

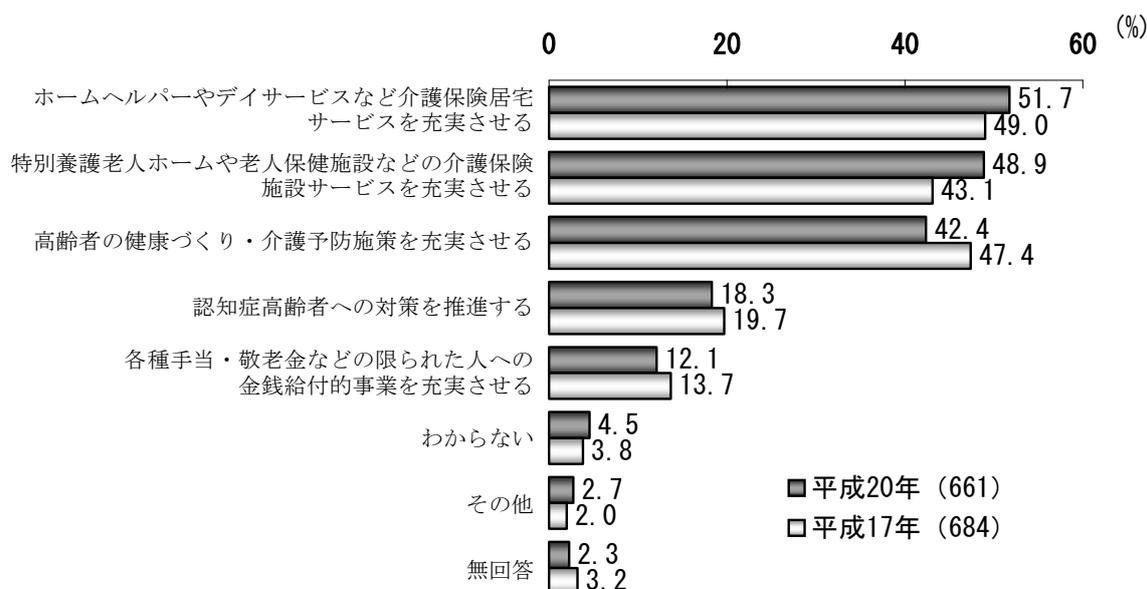
(1) 高齢福祉サービスで力を入れて欲しい施策内容

問 2 5 介護保険をはじめ高齢福祉サービスの充実が求められています。

市に力を入れて欲しい施策を、次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図 15-1：高齢福祉サービスで力を入れて欲しい施策内容：経年比較>



【全体・経年比較】

高齢福祉サービスで力を入れて欲しい施策内容としては、「ホームヘルパーやデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させる」が 51.7%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設サービスを充実させる」が 48.9%、「高齢者の健康づくり・介護予防施策を充実させる」が 42.4%と続いている。

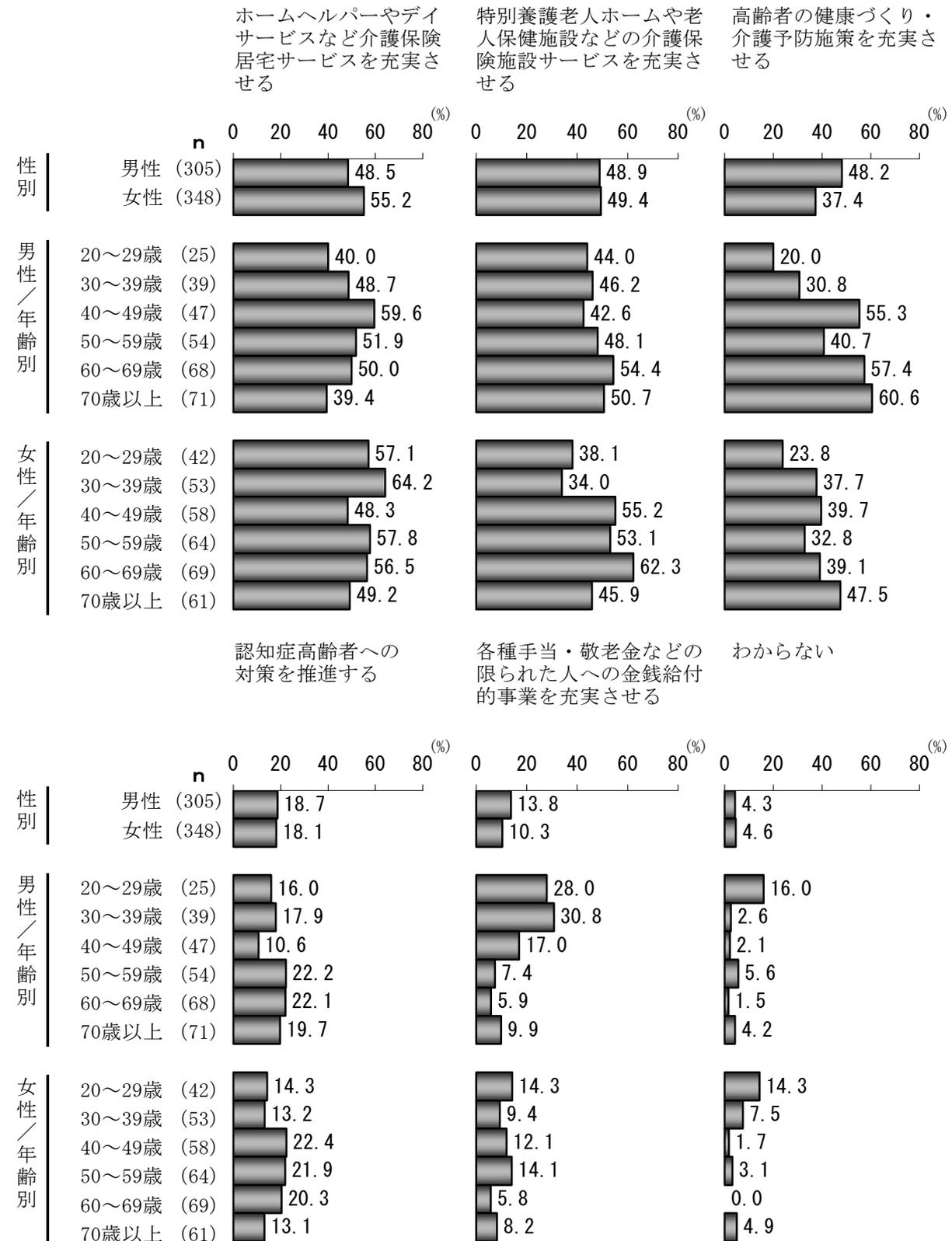
前回調査（平成 17 年）と比較すると、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設サービスを充実させる」が 5.8 ポイント増加し、「高齢者の健康づくり・介護予防施策を充実させる」が 5.0 ポイント減少している。

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「高齢者の健康づくり・介護予防施策を充実させる」が男性（48.2%）、女性（37.4%）となっており、男性が 10.8 ポイント上回っている。他方、「ホームヘルパーやデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させる」が女性（55.2%）、男性（48.5%）となっており、女性が 6.7 ポイント上回っている。

性／年齢別でみると、「ホームヘルパーやデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させる」は女性の30歳代が64.2%と他の性／年齢層より高くなっている。また、「高齢者の健康づくり・介護予防施策を充実させる」は男性の70歳以上が60.6%と他の性／年齢層よりも高くなっている。「各種手当・敬老金などの限られた人への金銭給付的事業を充実させる」は男性20歳代(28.0%)、30歳代(30.8%)で高くなっている。

<図15-2：性別・性／年齢別>

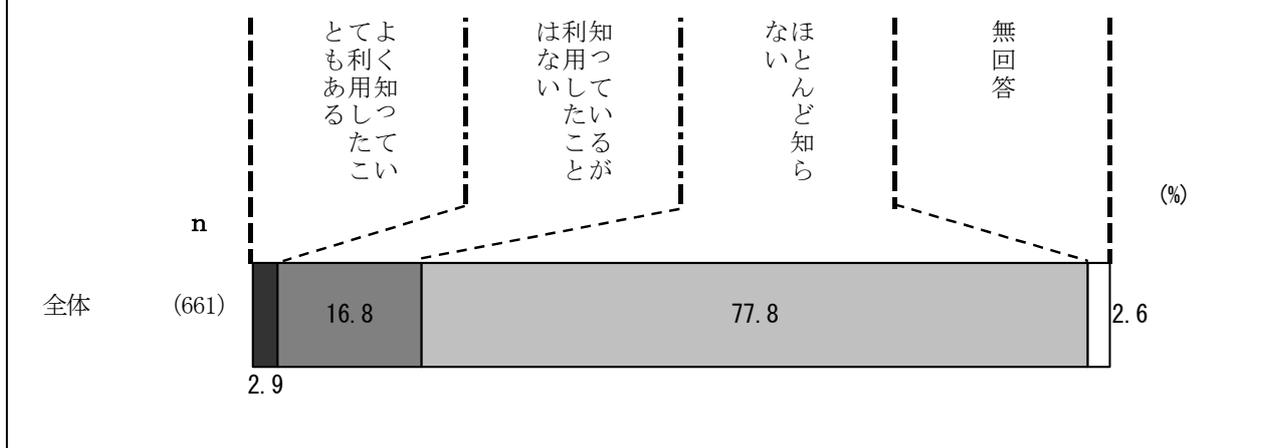


(2) 「地域包括支援センター」の認知状況

問26 健康センターの1階にある「地域包括支援センター」は、高齢者に関する総合相談窓口として設置されていますが、あなたはどのくらいご存知ですか。

[n=661]

<図15-3：「地域包括支援センター」の認知状況>



【全体】

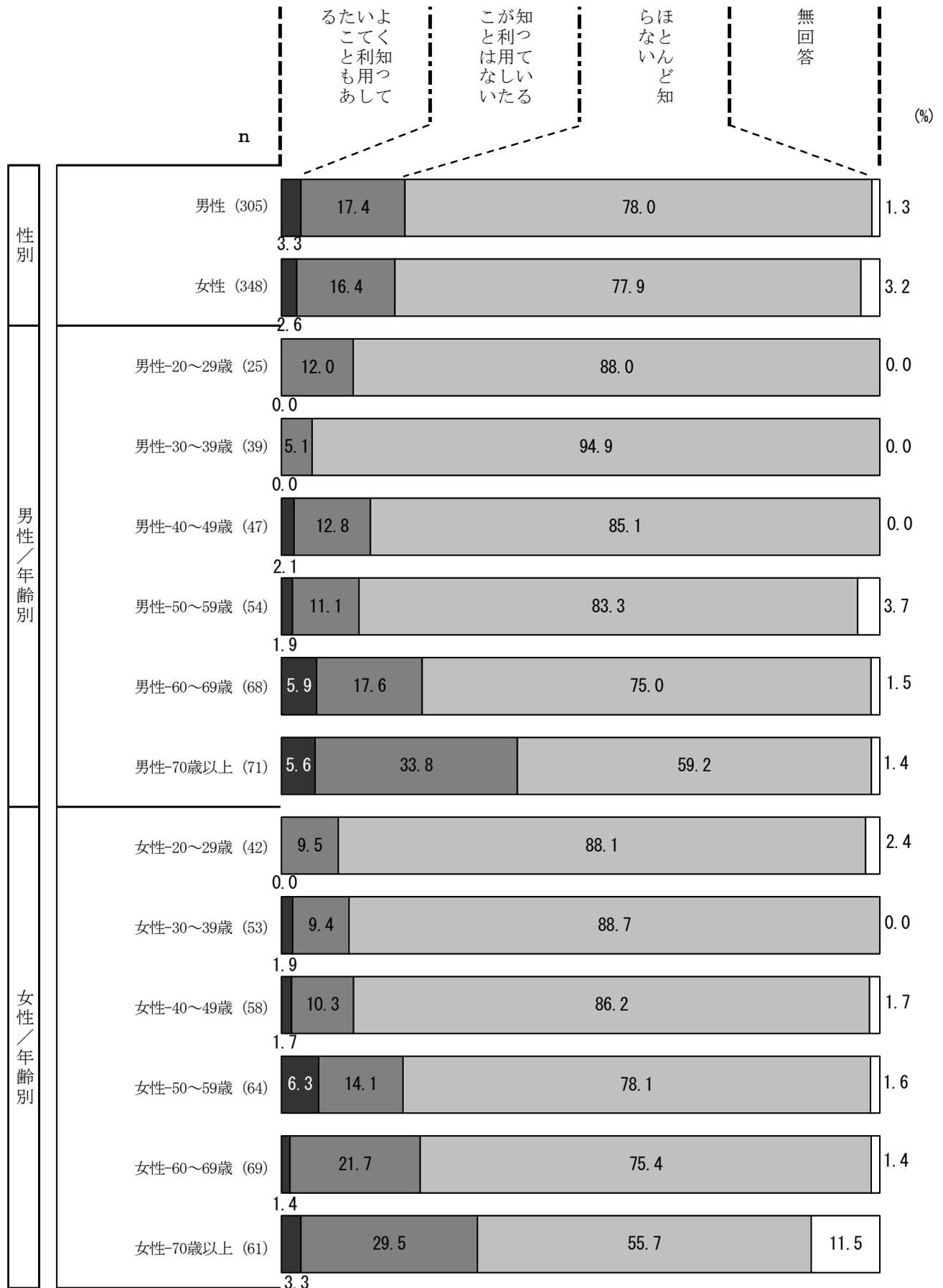
「地域包括支援センター」の認知状況については、「よく知っていて利用したこともある」が2.9%と少数であり、「知っているが利用したことはない」の16.8%と合算すると、『知っている』人は19.7%になる。他方、「ほとんど知らない」は77.8%となっている。

【性別・性／年齢別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

性／年齢別で見ると、『知っている』人は男性30歳代で5.1%と低くなっているが、年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、70歳以上では男性が39.4%、女性が32.8%となっている。

< 図 1 5-4 : 性別・性／年齢別 >



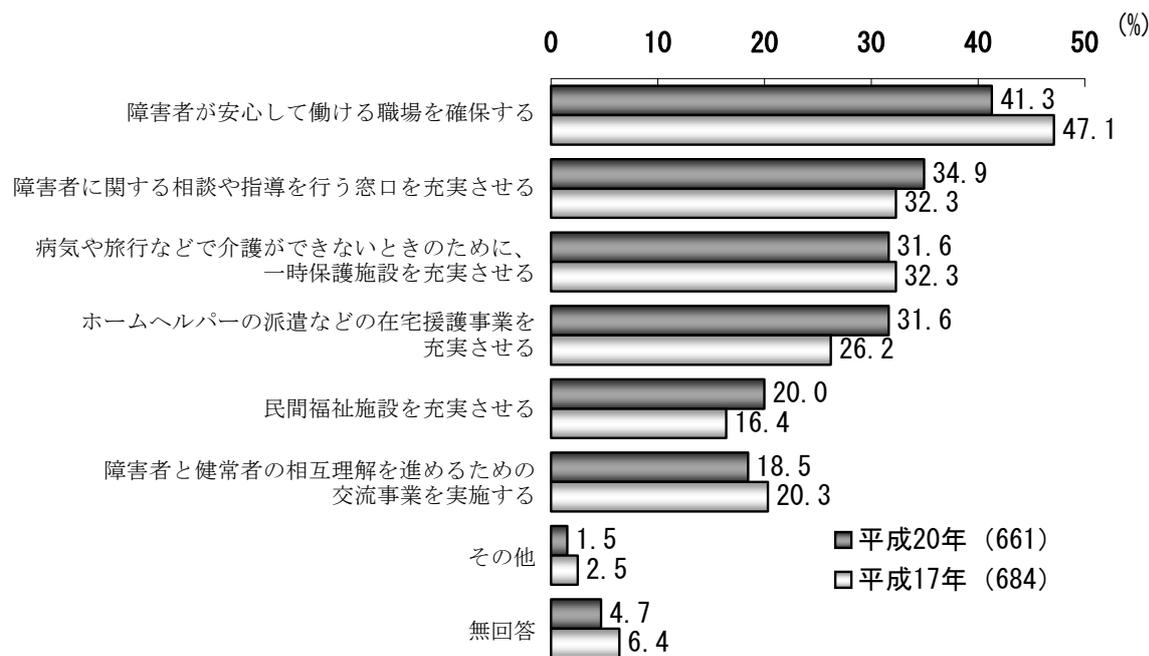
1 6 障害者福祉

(1) 障害者福祉施策を進めていく上で力を入れて欲しいこと

問 2 7 市では、障害者福祉センターの整備や福祉のまちづくりなどに取り組んできましたが、今後障害者福祉施策を進めていく上で、力を入れて欲しいものは何だとお考えですか。次の中から2つまでお答えください。

[n = 661]

<図 16-1 : 障害者福祉施策を進めていく上で力を入れて欲しいこと・経年比較>



【全体・経年比較】

障害者福祉施策を進めていく上で力を入れて欲しいことは、「障害者が安心して働ける職場を確保する」が 41.3%と最も高く、次いで、「障害者に関する相談や指導を行う窓口を充実させる」が 34.9%、「病気や旅行などで介護ができないときのために、一時保護施設を充実させる」と「ホームヘルパーの派遣などの在宅援護事業を充実させる」がそれぞれ 31.6%となっている。

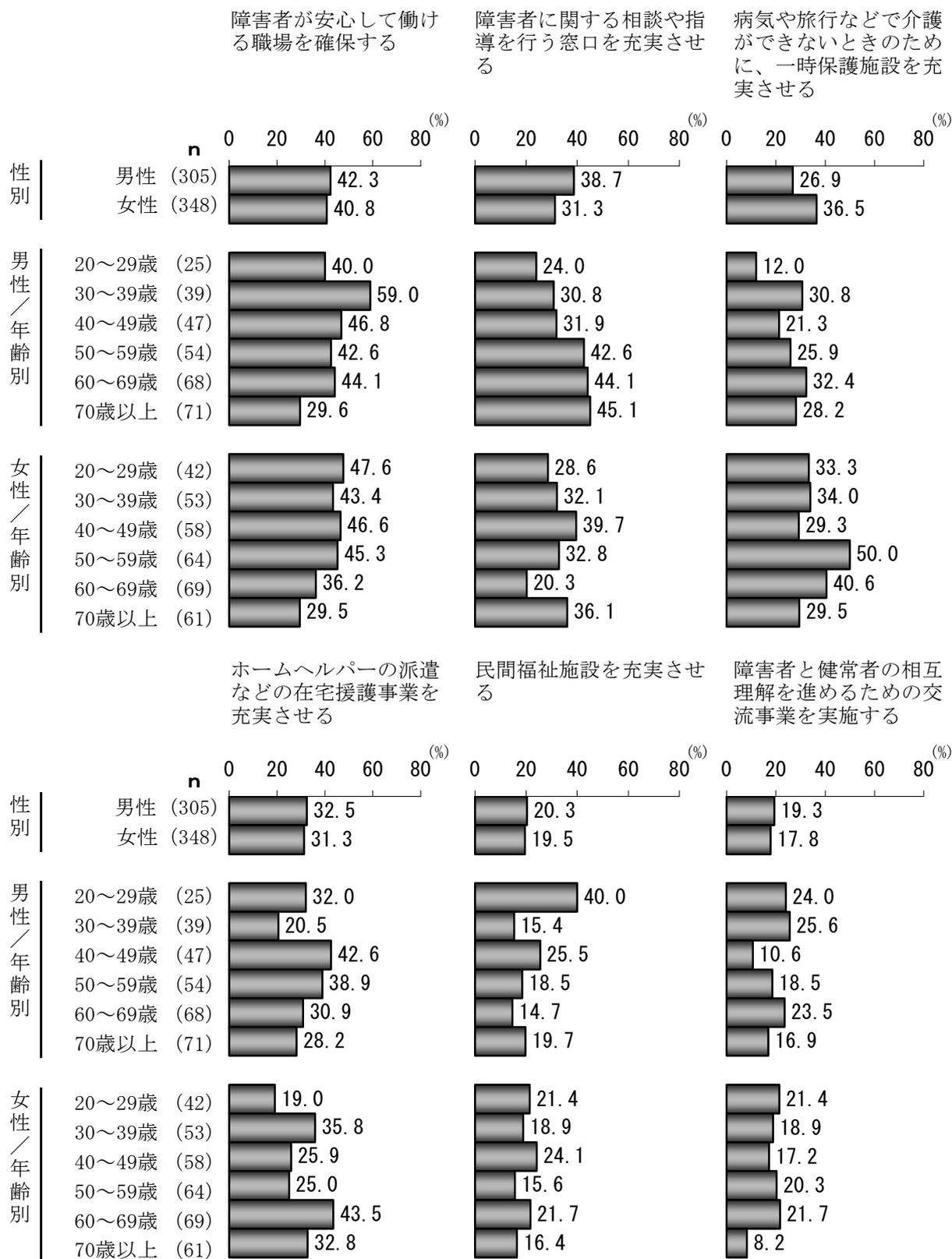
前回調査（平成 17 年）と比較すると上位 3 項目の順位に変化みられないが、「障害者が安心して働ける職場を確保する」が 5.8 ポイント減少し、「ホームヘルパーの派遣などの在宅援護事業を充実させる」が 5.4 ポイント増加している。

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「障害者に関する相談や指導を行う窓口を充実させる」が男性（38.7%）、女性（31.3%）となっており、男性が 7.4 ポイント上回っている。他方、「病気や旅行などで介護ができないときのために、一時保護施設を充実させる」は女性（36.5%）、男性（26.9%）となっており、女性が 9.6 ポイント上回っている。

性／年齢別でみると、「障害者が安心して働ける職場を確保する」は男性の30歳代が59.0%と他の性／年齢層より高くなっている。「病気や旅行などで介護ができないときのために、一時保護施設を充実させる」は女性の50歳代が50.0%と他の性／年齢層より高くなっている。

<図16-2：性別・性／年齢別>



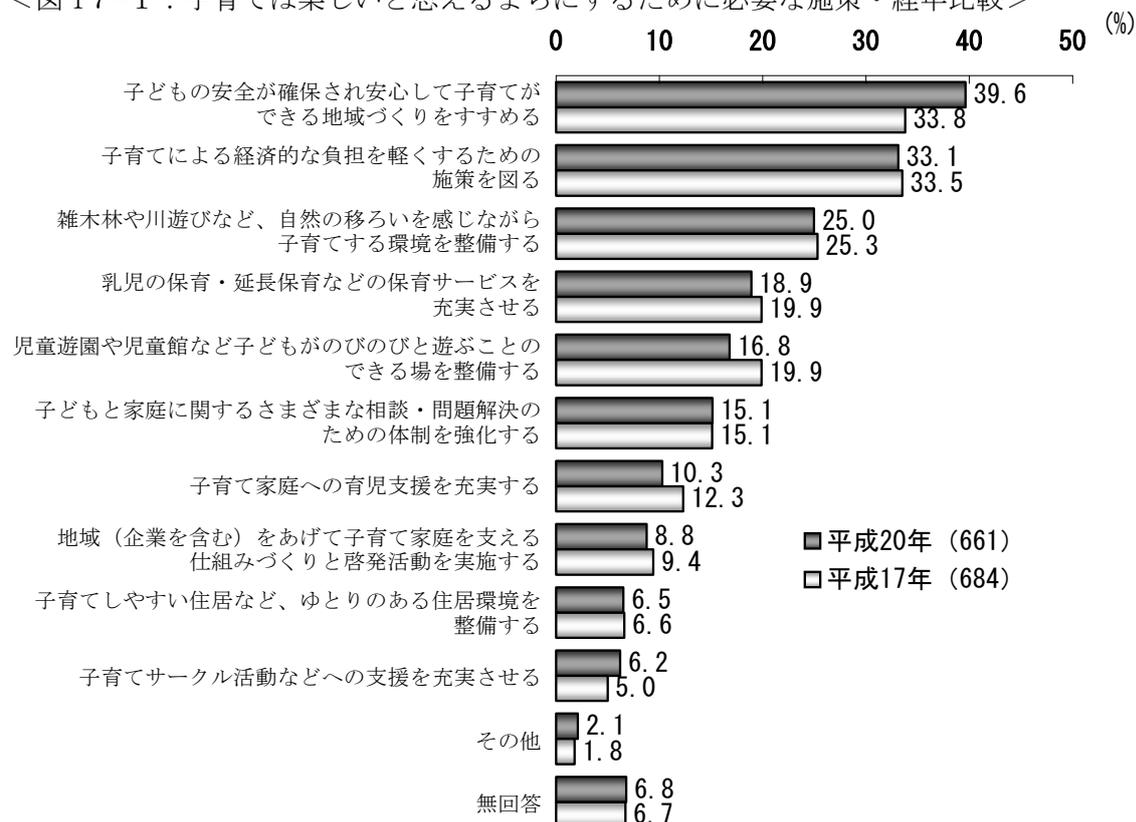
1.7 子育て支援

(1) 子育ては楽しいと思えるまちにするために必要な施策

問28 子育てって楽しいな！と思えるまちにしていくためにはどのような施策が必要だと思いますか。次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図17-1：子育ては楽しいと思えるまちにするために必要な施策・経年比較>



【全体・経年比較】

子育ては楽しいと思えるまちにするために必要な施策としては、「子どもの安全が確保され安心して子育てができる地域づくりをすすめる」が39.6%と最も高く、次いで「子育てによる経済的な負担を軽くするための施策を図る」が33.1%、「雑木林や川遊びなど、自然の移ろいを感じながら子育てする環境を整備する」が25.0%と続いている。

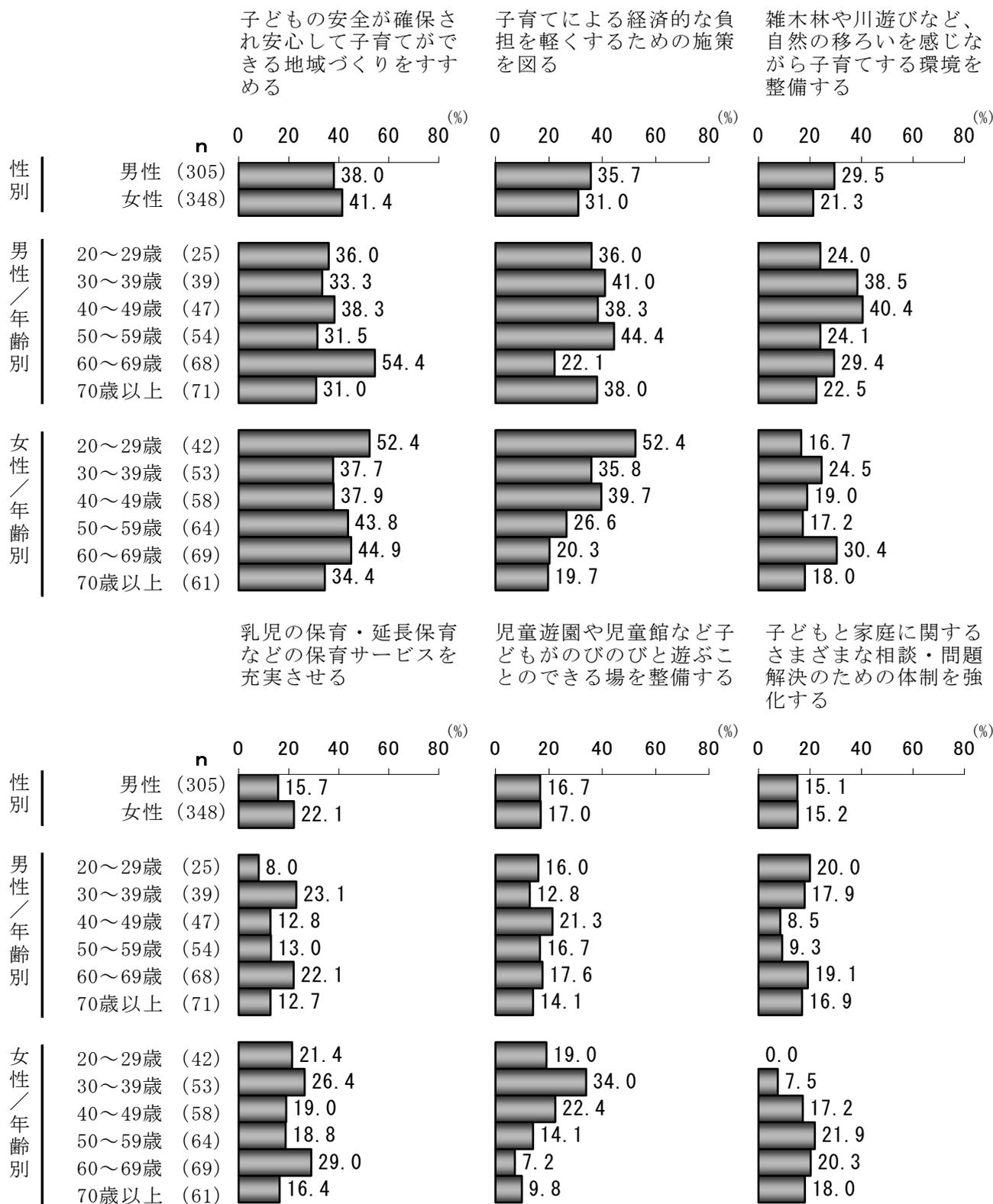
前回調査（平成17年）と比較すると、項目の順位に変化はみられないが、「子どもの安全が確保され安心して子育てができる地域づくりをすすめる」が5.8ポイント増加している。

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「雑木林や川遊びなど、自然の移ろいを感じながら子育てする環境を整備する」が男性（29.5%）、女性（21.3%）となっており、男性が8.2ポイント上回っている。他方、「乳児の保育・延長保育などの保育サービスを充実させる」が女性（22.1%）、男性（15.7%）となっており、女性が6.4ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「子どもの安全が確保され安心して子育てができる地域づくりをすすめる」は男性の60歳代、女性の20歳代がそれぞれ54.4%、52.4%と他の性／年齢層より高くなっている。また、「子育てによる経済的な負担を軽くするための施策を図る」は女性の20歳代が52.4%と他の性／年齢層より高くなっている。

<図17-2：性別・性／年齢別：上位6項目>



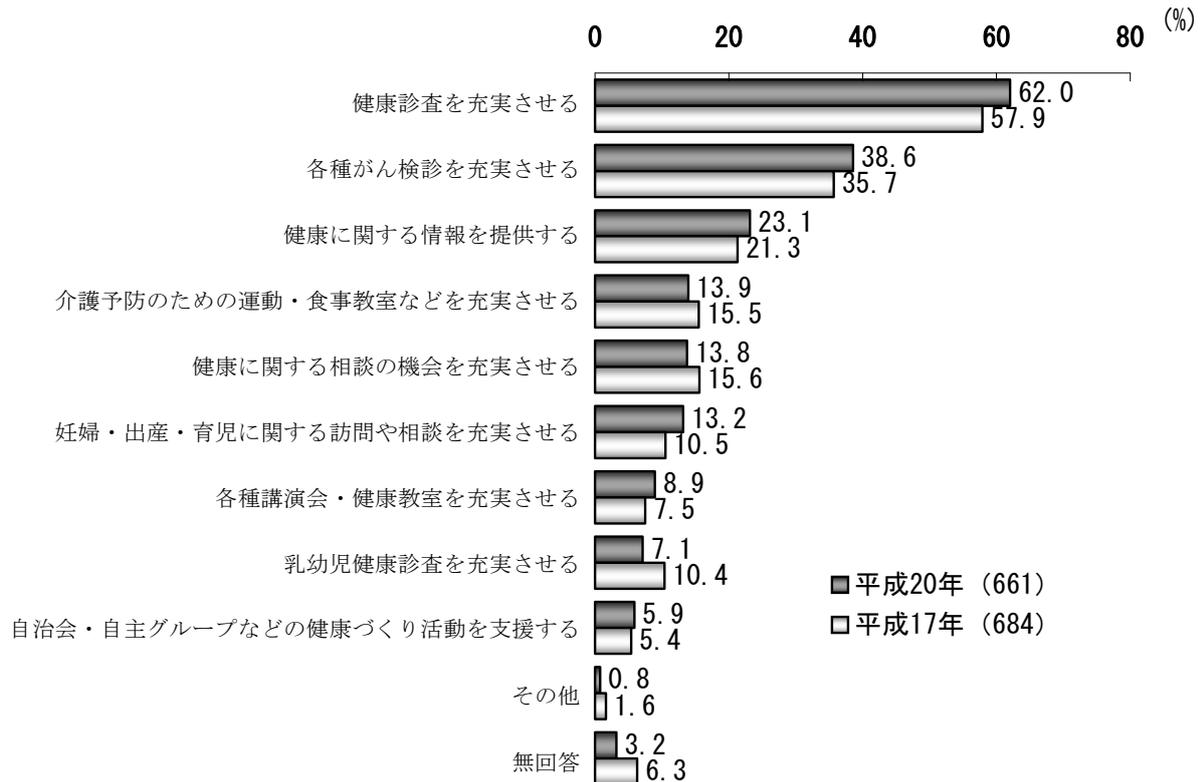
1 8 健康

(1) 保健事業で力を入れて欲しい内容

問 2 9 市では、乳幼児から高齢者まで、市民の健康を守るために健康診査や健康大学の開催など様々な保健事業を実施しています。健康事業を進めていく上で、力を入れてほしいものは何ですか。次の中から2つまでお答えください。

[n = 661]

<図 18-1 : 保健事業で力を入れて欲しい内容・経年比較>



【全体・経年比較】

保健事業で力を入れて欲しい内容としては、「健康診査を充実させる」が 62.0%と最も高く、次いで「各種がん検診を充実させる」が 38.6%、「健康に関する情報を提供する」が 23.1%と続いている。

前回調査（平成 17 年）と比較すると、特に大きな差異はみられないが、「健康診査を充実させる」が 4.1 ポイント増加している。

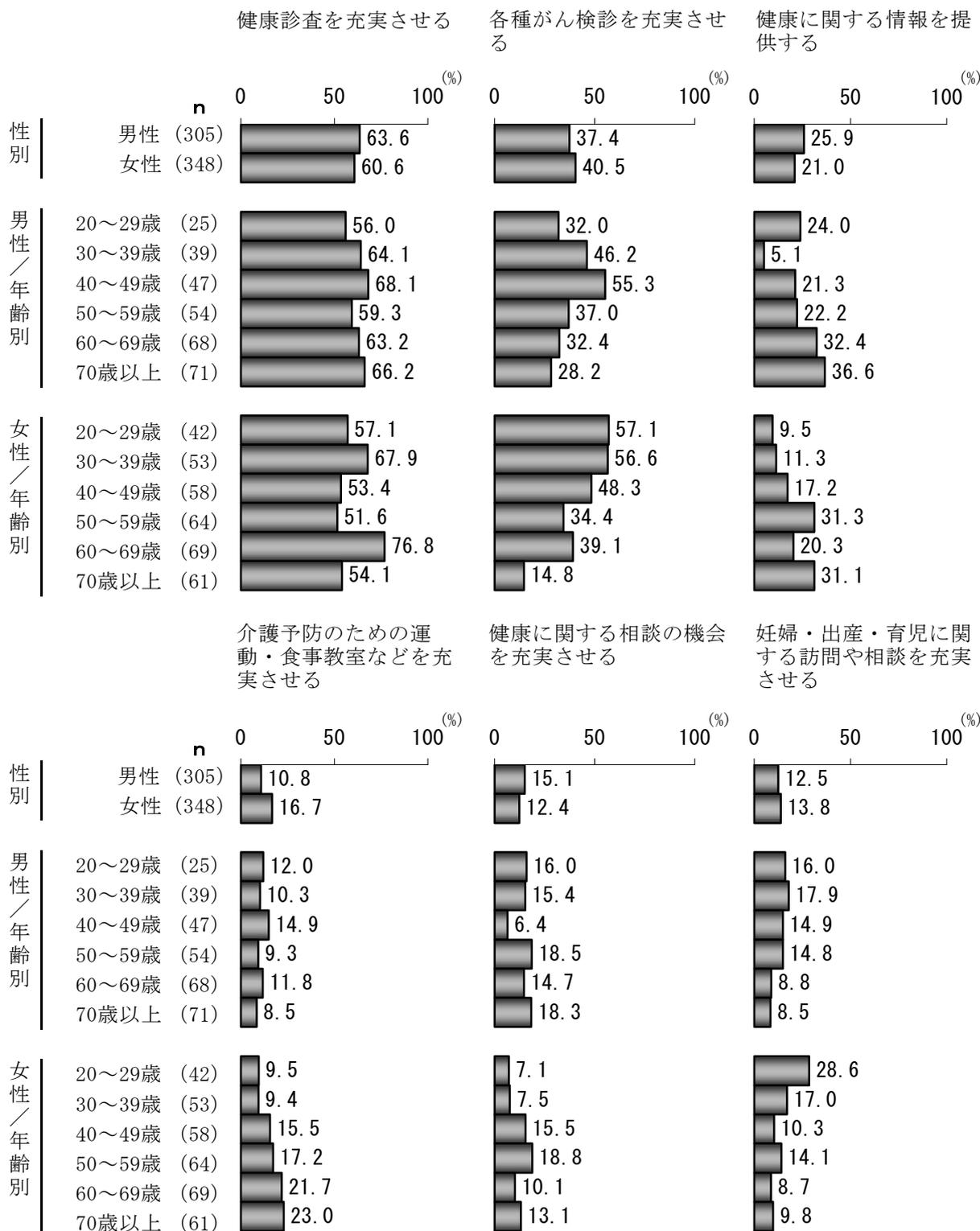
【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「健康に関する情報を提供する」が男性 (25.9%)、女性 (21.0%) となっており、男性が 4.9 ポイント上回っている。他方、「介護予防のための運動・食事教室などを充実させる」が女性 (16.7%)、男性 (10.8%) となっており、女性が 5.9 ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「健康診査を充実させる」はいずれの年齢層においても5割超の高い数値を示しており、女性の60歳代では76.8%と最も高くなっている。「各種がん検診を充実させる」は男性の40歳代、女性の20歳代、30歳代がそれぞれ55.3%、57.1%、56.6%と他の性／年齢層よりも高くなっている。

また、「妊婦・出産・育児に関する訪問や相談を充実させる」は女性の20歳代が28.6%と他の性／年齢層よりも高くなっている。

<図18-2：性別・性／年齢別：上位6項目>



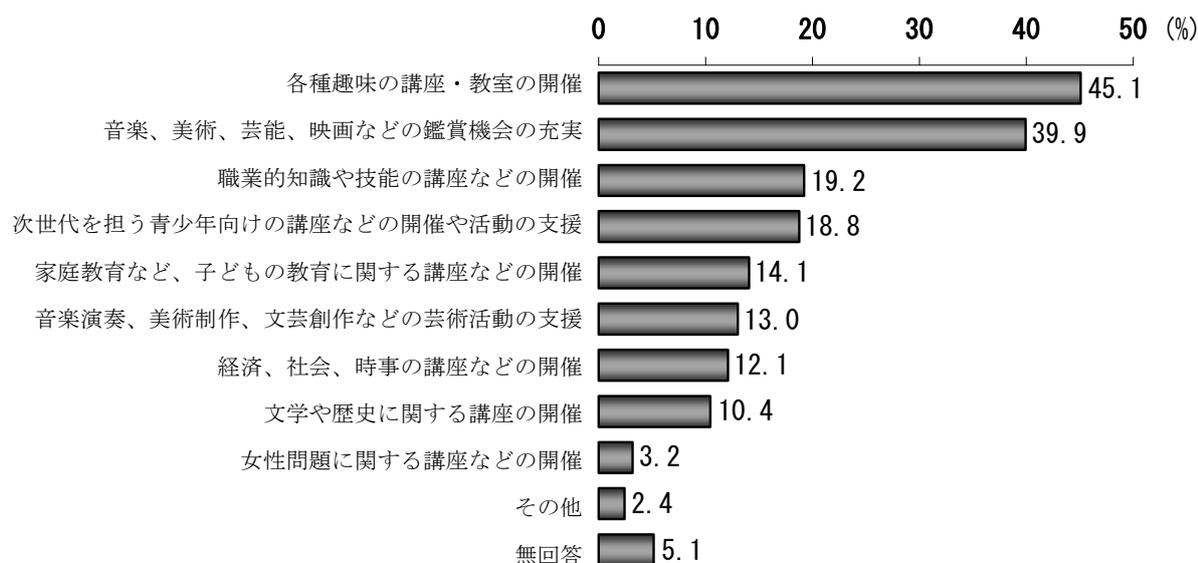
1 9 生涯学習

(1) 学習活動を行う上で市に望む内容

問30 あなたが生涯学習活動を行う上で、市にどのようなことを望みますか。次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図19-1：学習活動を行う上で市に望む内容>



【全体】

学習活動を行う上で市に望む内容としては、「各種趣味の講座・教室の開催」が45.1%と最も高く、次いで「音楽、美術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」が39.9%と上位2項目が他を大きく引き離している。

【経年比較】

経年変化でみると、「音楽、美術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」は前回調査（平成17年）と比較して19.1ポイント増加した。

<表19-1：学習活動を行う上で市に望む内容：経年比較>

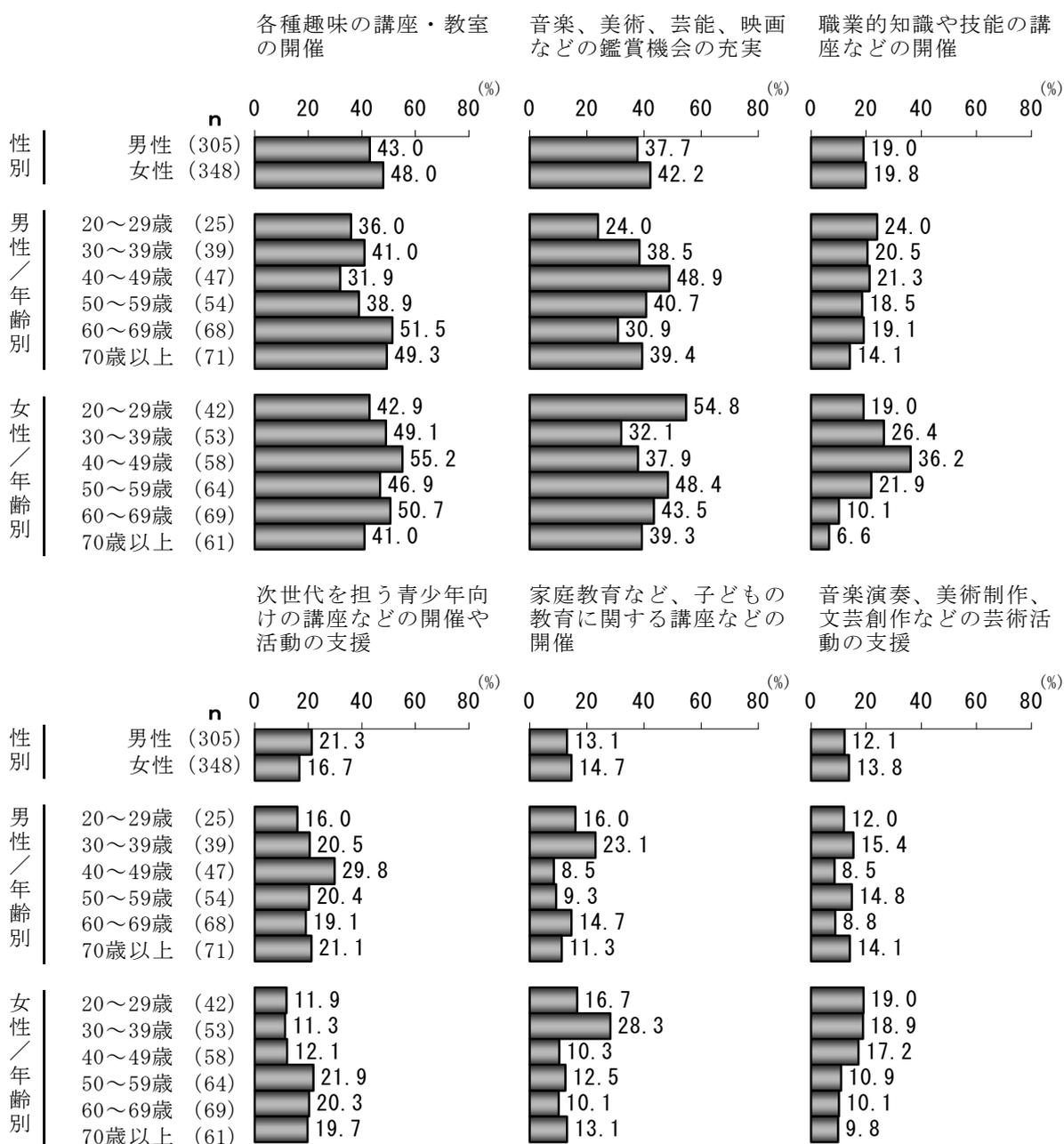
順位	平成14年 [n=652]	平成17年 [n=684]	平成20年 [n=661]
1位	各種趣味の講座・教室の開催	各種趣味の講座・教室の開催 (48.2)	各種趣味の講座・教室の開催 (45.1)
2位	(44.2)	音楽、美術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実 (44.2)	音楽、美術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実 (39.9)
3位	職業的知識や技能の講座等の開催 (27.6)	次世代を担う青少年向けの講座等の開催や活動の支援 (20.3)	職業的知識や技能の講座などの開催 (19.2)

【性別・性／年齢別】

性別でみると、「次世代を担う青少年向けの講座などの開催や活動の支援」は男性（21.3%）、女性（16.7%）となっており、男性が女性を4.6ポイント上回っている。他方、「各種趣味の講座・教室の開催」は女性（48.0%）、男性（43.0%）、「音楽、美術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」は女性（42.2%）、男性（37.7%）となっており、女性が男性をそれぞれ5.0ポイント、4.5ポイント上回っている。

性／年齢別でみると、「各種趣味の講座・教室の開催」は男性の60歳代（51.5%）、女性の40歳代（55.2%）、60歳代（50.7%）で5割を超えている。また、「音楽、美術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」は女性の20歳代が54.8%と他の性／年齢層より比較的高くなっている。「職業的知識や技能の講座などの開催」は女性の40歳代が36.2%と高くなっている。

<図19-2：性別・性／年齢別：上位6項目>



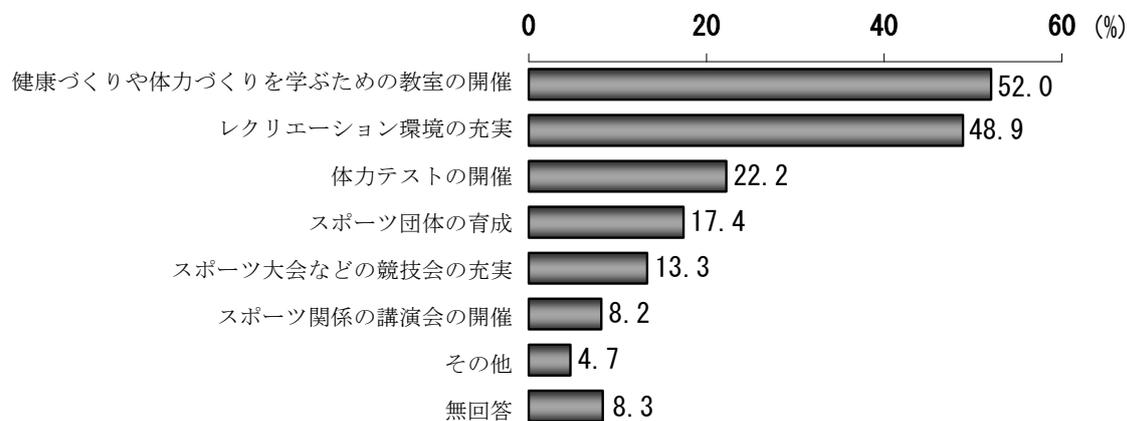
(2) スポーツ活動を行う上で市に望むこと

問31 あなたがスポーツ活動を行う上で、市にどのようなことを望みますか。

次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図19-3：スポーツ活動を行う上で市に望むこと>



【全体】

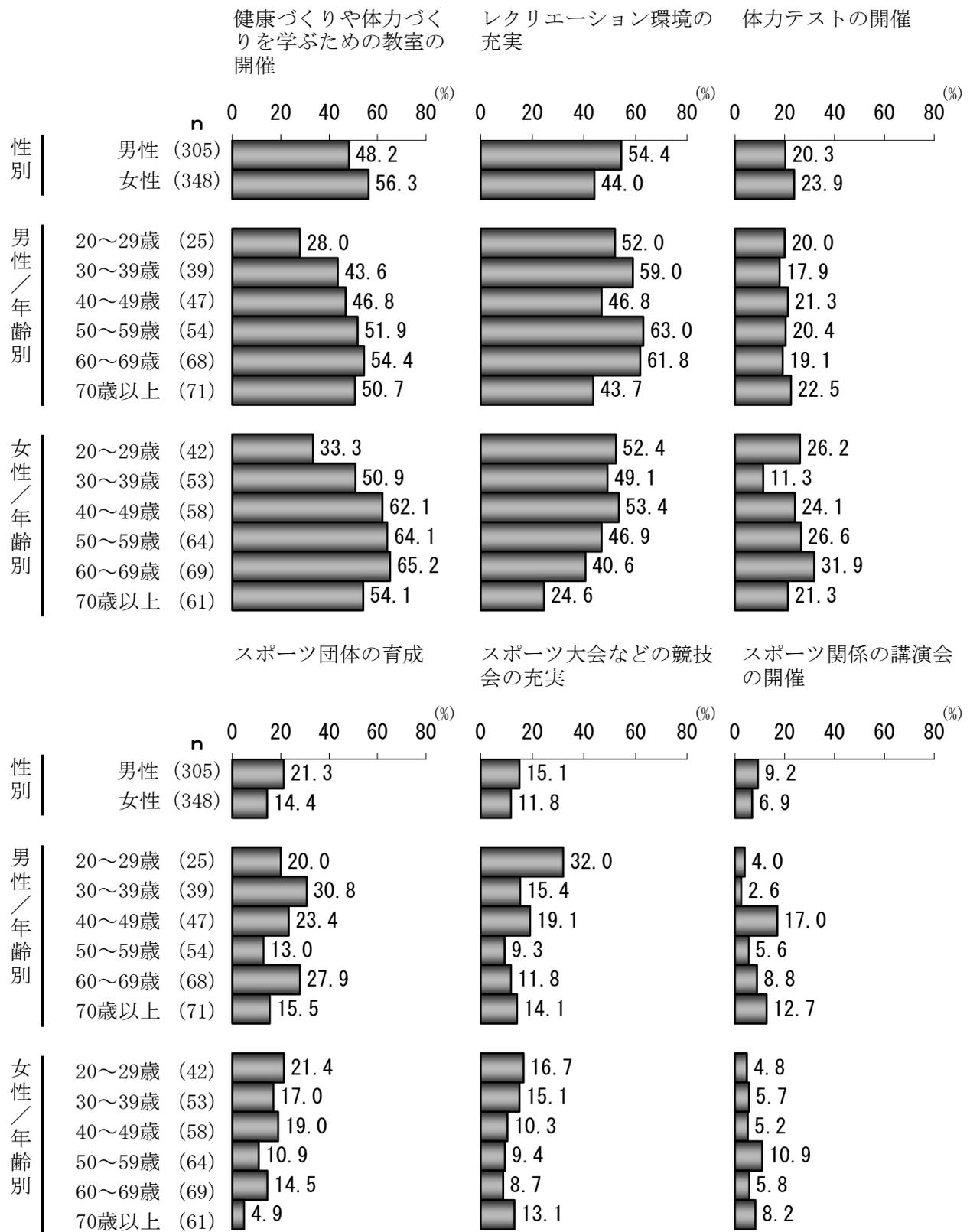
スポーツ活動を行う上で市に望むこととしては、「健康づくりや体力づくりを学ぶための教室の開催」が52.0%と最も高く、次いで「レクリエーション環境の充実」が48.9%となっており、上位2項目が他を大きく引き離している。

【性別・性／年齢別】

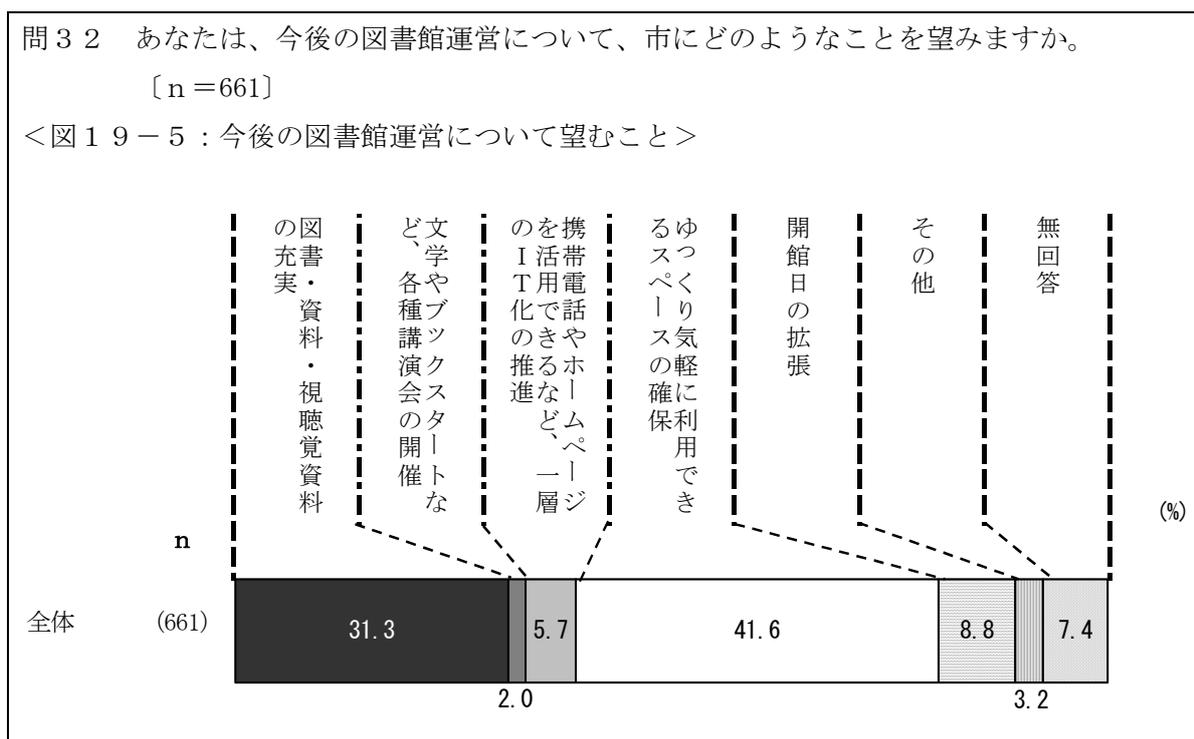
性別で見ると、「レクリエーション環境の充実」は男性（54.4%）、女性（44.0%）となっており、男性が女性を10.4ポイント上回っている。他方、「健康づくりや体力づくりを学ぶための教室の開催」は女性（56.3%）、男性（48.2%）となっており、女性が男性を8.1ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「健康づくりや体力づくりを学ぶための教室の開催」は男性、女性ともに70歳以上を除いて年齢が上がるほど数値が高くなっている。「レクリエーション環境の充実」は男性の50歳代（63.0%）と60歳代（61.8%）で高い数値を示しており、6割を超えている。また、「スポーツ大会などの競技会の充実」は男性の20歳代で32.0%と高くなっている。

<図19-4：性別・性／年齢別>



(3) 今後の図書館運営について望むこと



【全体】

今後の図書館運営について望むこととしては、「ゆっくり気軽に利用できるスペースの確保」が41.6%と最も高く、次いで「図書・資料・視聴覚資料の充実」が31.3%となっており、上位2項目が他の項目より高い数値を示している。

【経年比較】

経年変化をみると、上位の順位は変わらないが、「ゆっくり気軽に利用できるスペースの確保」と「図書・資料・視聴覚資料の充実」は増加傾向にあるが、「開館日の拡張」は減少傾向にある。

<表19-2：今後の図書館運営について望むこと：経年比較>

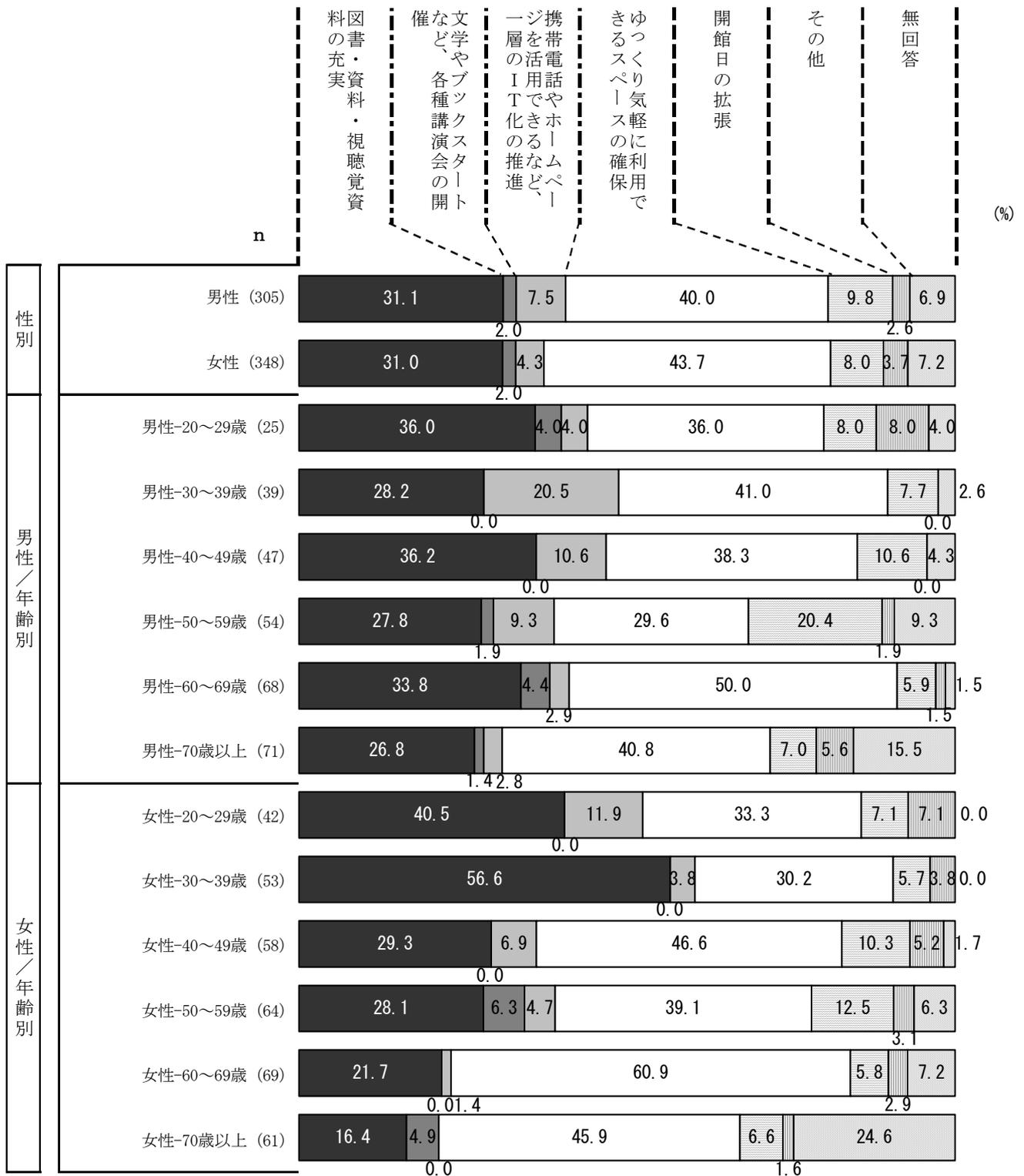
順位	平成14年 [n=652]	平成17年 [n=684]	平成20年 [n=661]
1位	ゆっくり気軽に利用できるスペースを確保する (33.0)	ゆっくり気軽に利用できるスペースの確保 (39.2)	ゆっくり気軽に利用できるスペースの確保 (41.6)
2位	図書資料の充実 (21.8)	図書資料、視聴覚資料の充実 (28.8)	図書・資料・視聴覚資料の充実 (31.3)
3位	開館時間を拡張する (16.3)	開館日の拡張 (13.0)	開館日の拡張 (8.8)

【性別・性／年齢別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

性／年齢別で見ると、「ゆっくり気軽に利用できるスペースの確保」が女性の60歳代が60.9%と最も高くなっている。他方、「図書・資料・視聴覚資料の充実」は、女性の30歳代が56.6%と他の性／年齢層と比較して高くなっている。

<図19-6：性別・性／年齢別>



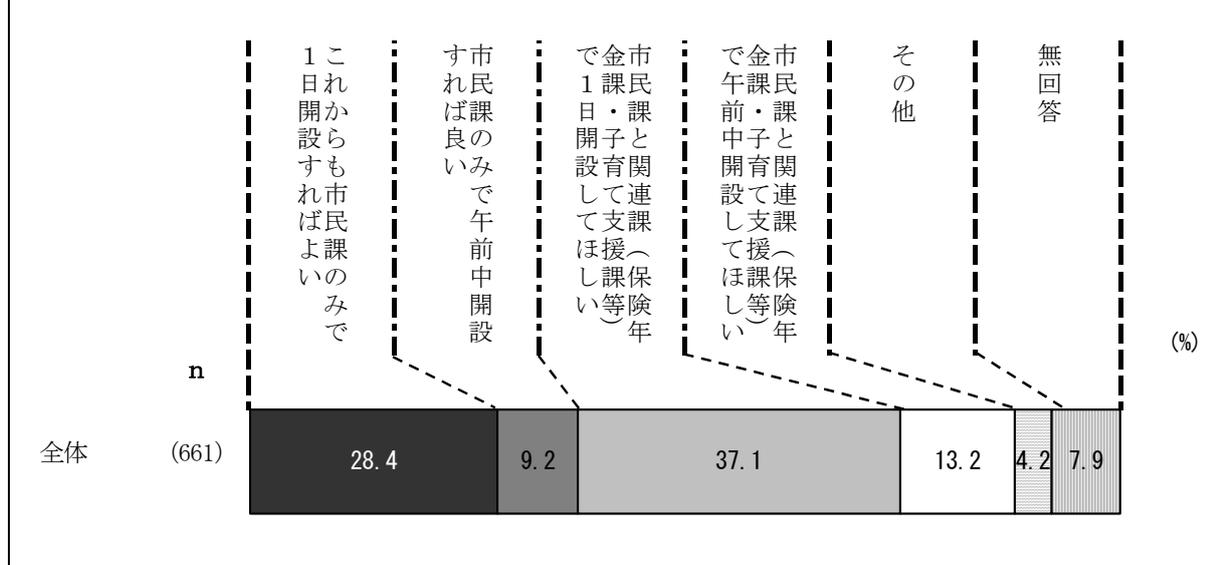
20 市民サービス

(1) 土曜窓口の開設内容について

問33 市では、平成19年7月より市民課で土曜窓口を、午前8時30分から午後5時まで開設しています。あなたは開設内容についてどのようにお考えですか。

[n=661]

<図20-1：土曜窓口の開設内容について>



【全体】

土曜窓口の開設内容については、「市民課と関連課（保険年金課・子育て支援課等）で1日開設してほしい」が37.1%と最も高く、次いで「これからも市民課のみで1日開設すればよい」が28.4%となっている。

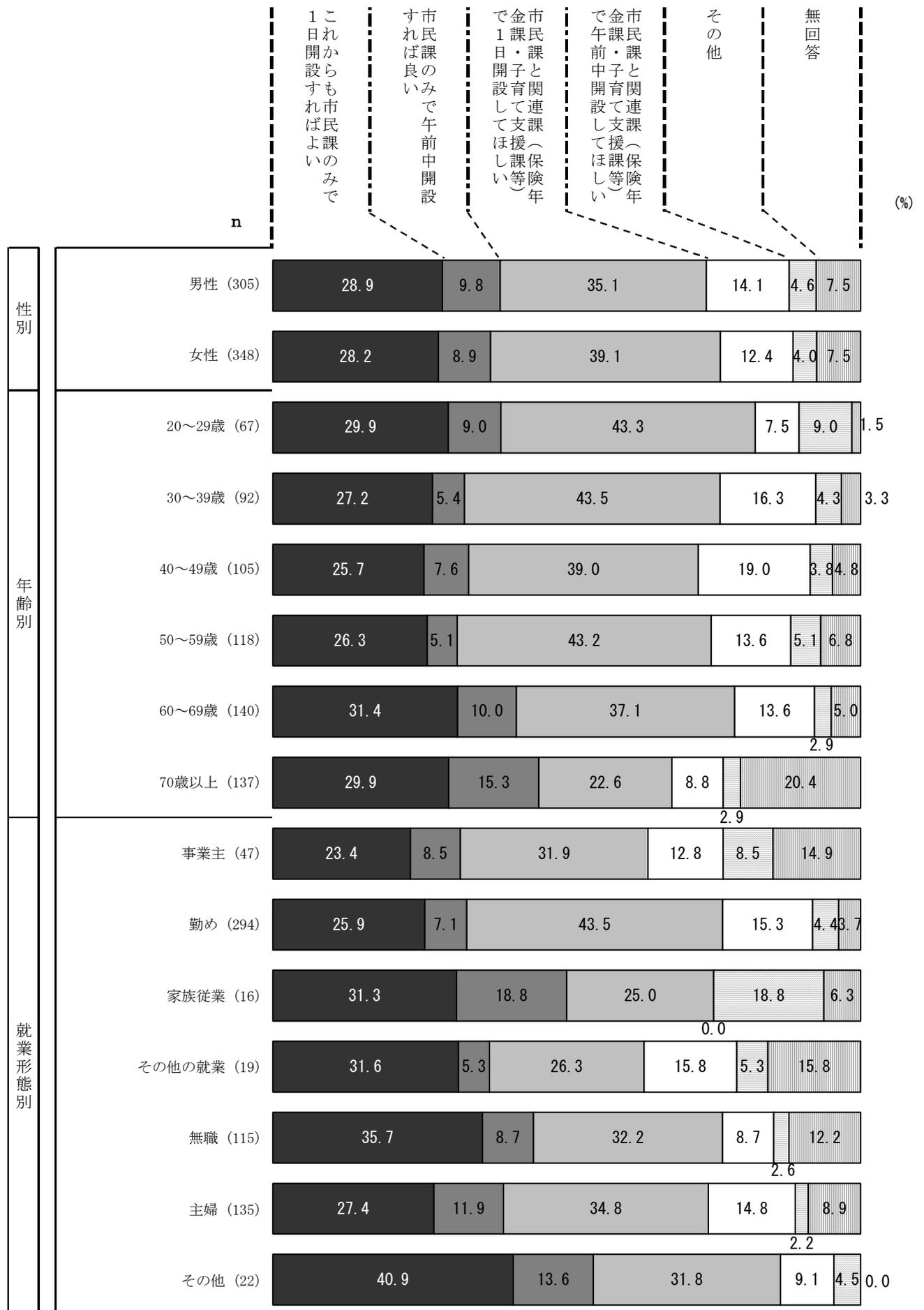
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「市民課と関連課（保険年金課・子育て支援課等）で1日開設してほしい」は女性（39.1%）、男性（35.1%）となっており、女性が男性を4.0ポイント上回っている。

年齢別でみると、「市民課と関連課（保険年金課・子育て支援課等）で1日開設してほしい」は20歳代（43.3%）、30歳代（43.5%）、50歳代（43.2%）で比較的高くなっており、4割を超えている。

就業形態別でみると、「市民課と関連課（保険年金課・子育て支援課等）で1日開設してほしい」は勤めで43.5%と高くなっている。

< 図 20-2 : 性別・年齢別・就業形態別 >



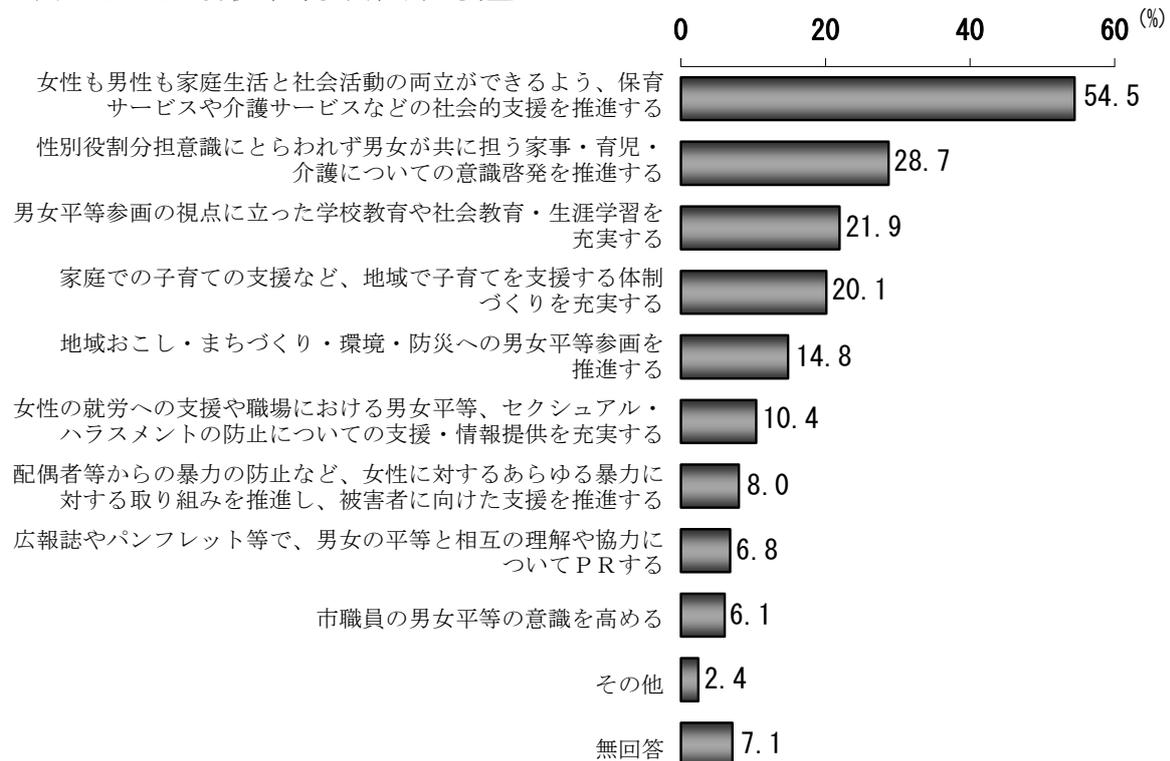
2 1 男女平等参画社会

(1) 男女平等参画社会の要望

問34 市では、男女平等推進条例を制定し条例に基づき男女平等参画プランを改定するなど、女性も男性もすべての市民が性別に関わりなく個人として尊重され責任をわかちあい平等に暮らせる男女平等参画社会の形成を目指していますが、そのためにあなたは市にどのようなことを望みますか。次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図21-1：男女平等参画社会の要望>



【全体】

男女平等参画社会の要望としては、「女性も男性も家庭生活と社会活動の両立ができるよう、保育サービスや介護サービスなどの社会的支援を推進する」が54.5%と最も高く、次いで「性別役割分担意識にとらわれず男女が共に担う家事・育児・介護についての意識啓発を推進する」が28.7%、「男女平等参画の視点に立った学校教育や社会教育・生涯学習を充実する」が21.9%、「家庭での子育ての支援など、地域で子育てを支援する体制づくりを充実する」が20.1%と続いている。

【経年比較】

前回調査（平成 17 年）、前々回調査（平成 14 年）と選択肢に変更はあるが、第 1 位の項目に変動はないが、「女性も男性も家庭生活と社会活動の両立ができるよう、保育サービスや介護サービスなどの社会的支援を推進する」が前回調査と比較して 6.4 ポイント増加した。

<表 21-1：男女平等参画社会の要望：経年比較>

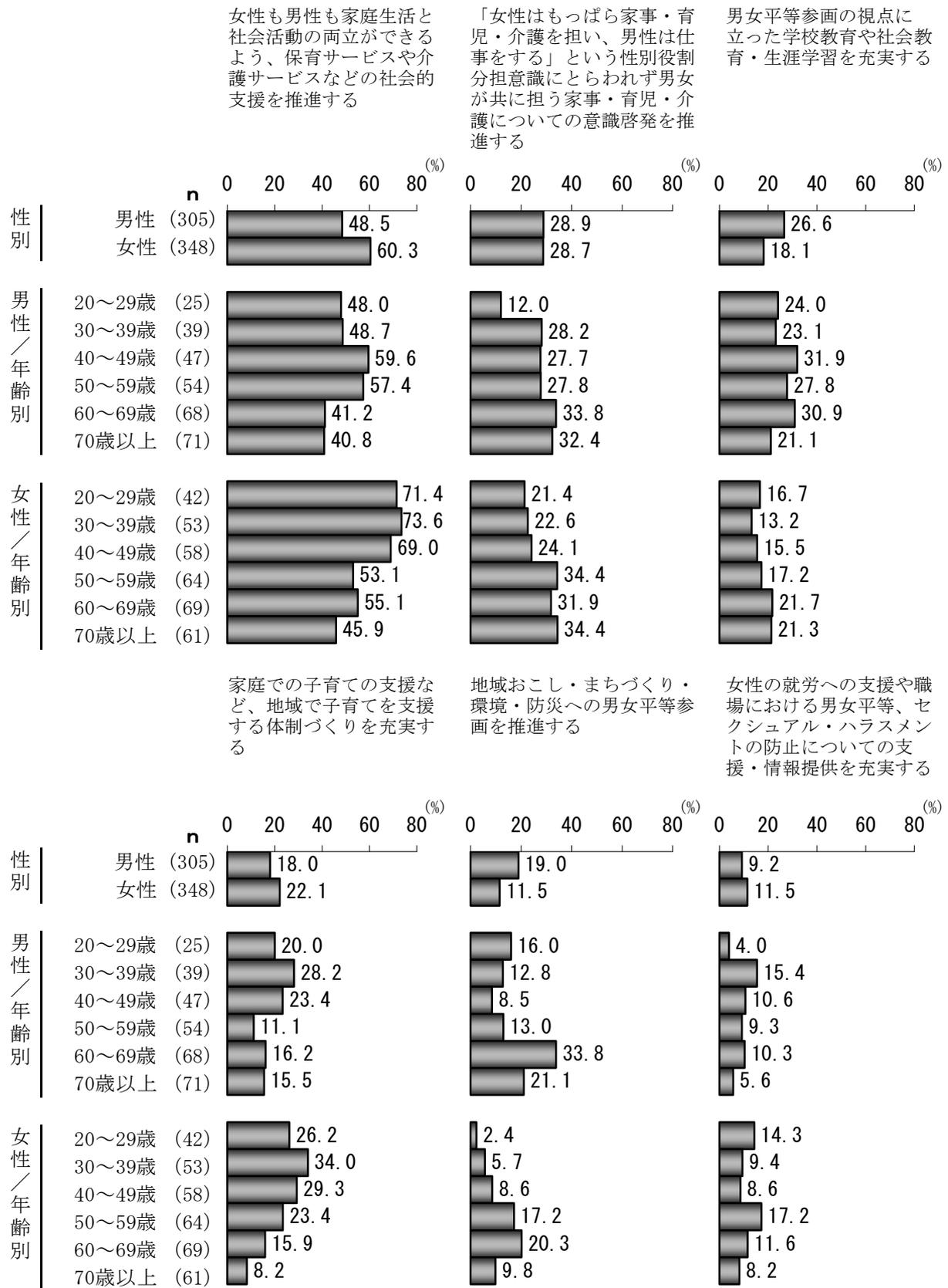
順位	平成 14 年 〔n=652〕	平成 17 年 〔n=684〕	平成 20 年 〔n=661〕
1 位	保育の施設・サービスや、 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する (52.1)	保育の施設・サービスや、 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する (48.1)	女性も男性も家庭生活と 社会活動の両立ができる よう、保育サービスや介護サービスなどの社会的 支援を推進する (54.5)
2 位	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する (23.0)	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する (30.6)	「女性はもっぱら家事・育児・介護を担い、男性は仕事をする」という性別役割分担意識にとらわれず男女が共に担う家事・育児・介護についての意識啓発を推進する (28.7)
3 位	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する (21.9)	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する (21.1)	男女平等参画の視点に立った学校教育や社会教育・生涯学習を充実する (21.9)

【性別・性／年齢別】

性別では、「女性も男性も家庭生活と社会活動の両立ができるよう、保育サービスや介護サービスなどの社会的支援を推進する」が、女性（60.3%）、男性（48.5%）となっており、女性が 11.8 ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「女性も男性も家庭生活と社会活動の両立ができるよう、保育サービスや介護サービスなどの社会的支援を推進する」は女性の 20 歳代（71.4%）、30 歳代（73.6%）、40 歳代（69.0%）が 7 割前後となっており、他の性／年齢層と比較して高くなっている。「地域おこし・まちづくり・環境・防災への男女平等参画を推進する」は男性の 60 歳代で 33.8%と他の性／年齢層と比較して高くなっている。

<図 2 1 - 2 : 性別・性／年齢別：上位 6 項目>



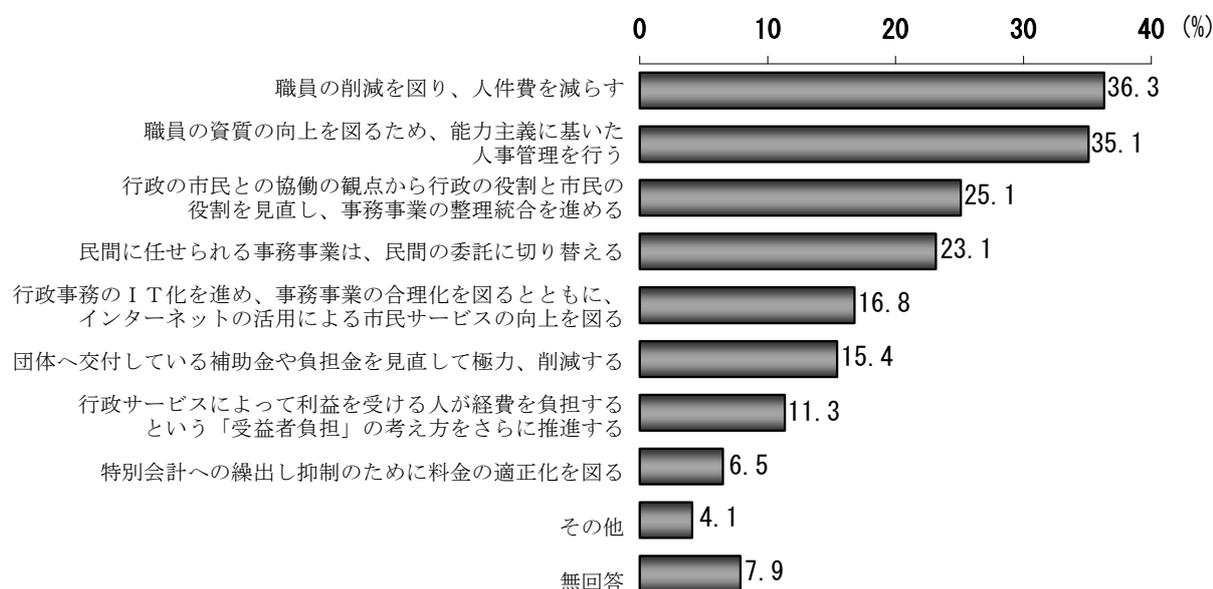
2.2 行財政改革

(1) 行財政改革を推進する際に取り組むべきこと

問35 市では、社会経済状況の変化や多様化、複雑化する市民の行政へ期待に対応するため、簡素で効率的な行政システムの確立と安定した行財政運営を目指し、平成19年6月に行財政改革実施計画を策定し、財政の健全化、職員定数の削減などに取り組み、行財政改革を推進しています。そこで、市が特に取り組むべきと思われるものを、次の中から2つまでお答え下さい。

[n=661]

<図2.2-1：行財政改革を推進する際に取り組むべきこと>



【全体】

行財政改革を推進する際に取り組むべきこととしては、「職員の削減を図り、人件費を減らす」が36.3%と最も高く、次いで「職員の資質の向上を図るため、能力主義に基いた人事管理を行う」が35.1%、「行政の市民との協働の観点から行政の役割と市民の役割を見直し、事務事業の整理統合を進める」が25.1%、「民間に任せられる事務事業は、民間の委託に切り替える」が23.1%で続いている。

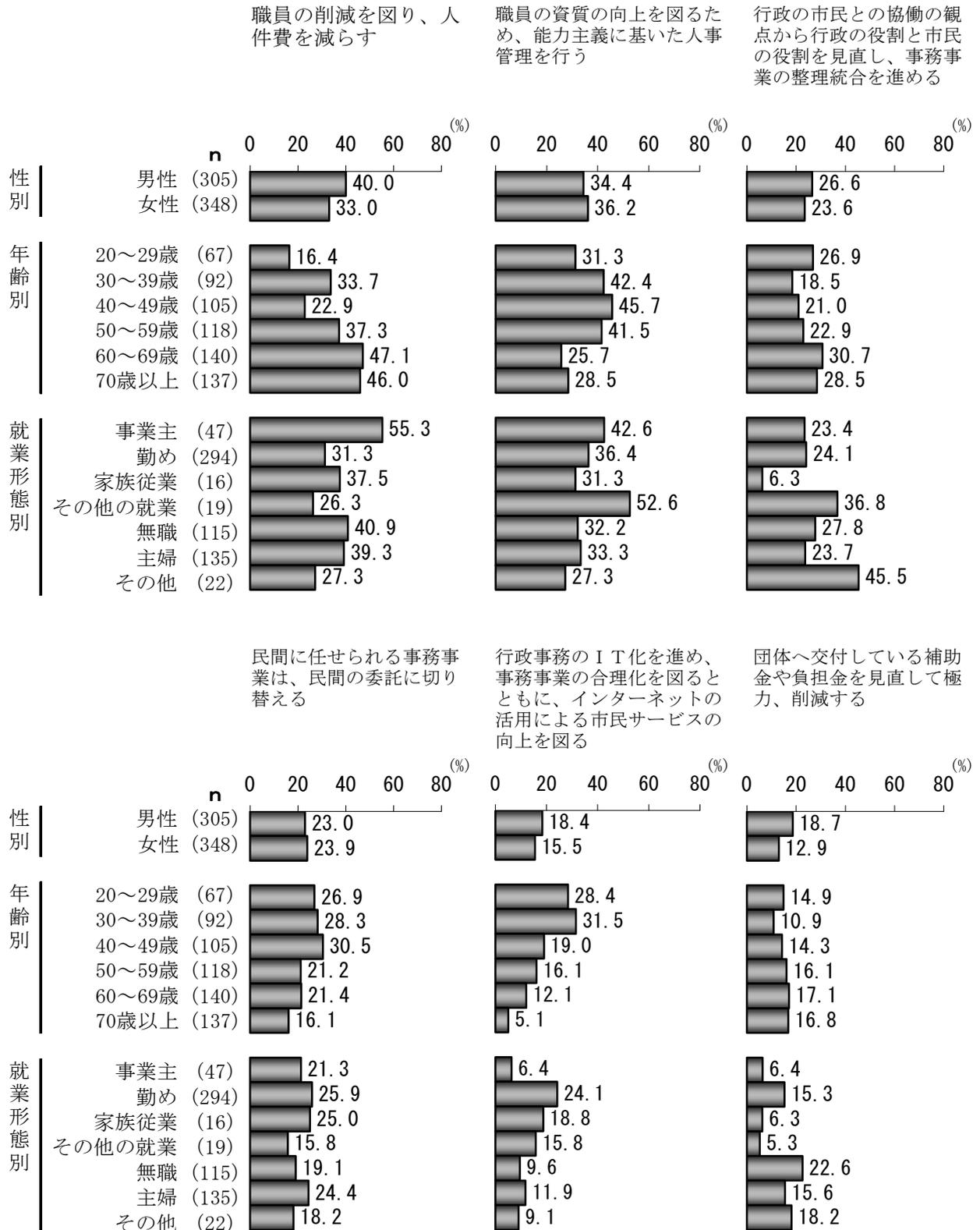
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「職員の削減を図り、人件費を減らす」が男性（40.0%）、女性（33.0%）となっており、男性が7.0ポイント上回っている。

年齢別でみると、「職員の削減を図り、人件費を減らす」は60歳代（47.1%）と70歳以上（46.0%）で高くなっている。また、「職員の資質の向上を図るため、能力主義に基いた人事管理を行う」は30歳代（42.4%）、40歳代（45.7%）、50歳代（41.5%）が高くなっている。

就業形態別で見ると、「職員の削減を図り、人件費を減らす」は事業主が 55.3%と最も高くなっている。また、「行政事務のIT化を進め、事務事業の合理化を図るとともに、インターネットの活用による市民サービスの向上を図る」は勤めで24.1%と高くなっている。

<図22-2：性別・年齢別・就業形態別：上位6項目>



2.3 重点施策

(1) 今後、重点的に進めるべき施策内容

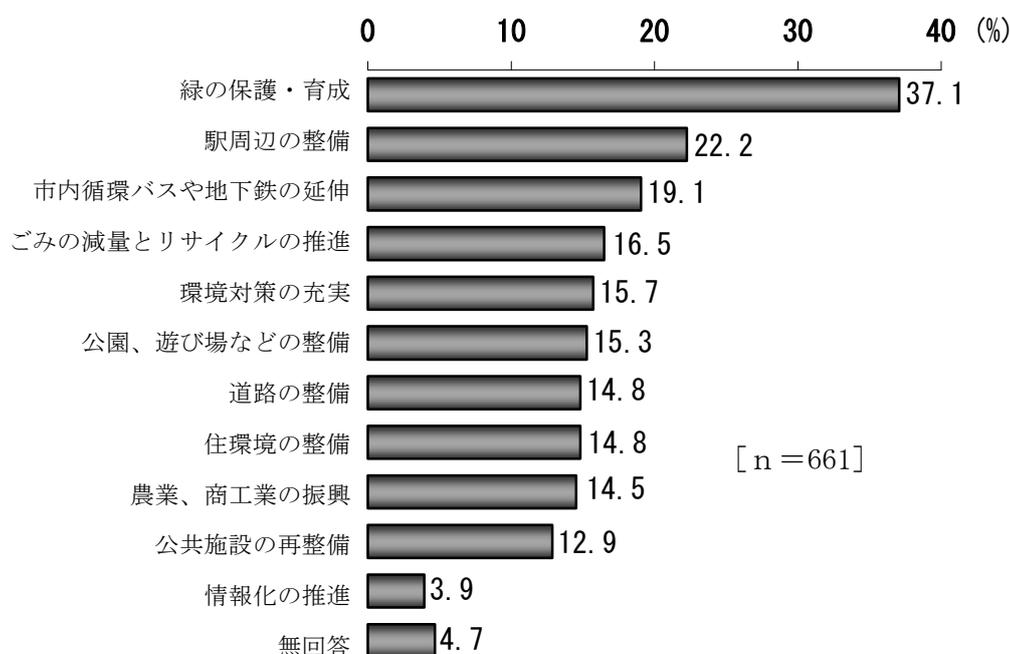
問36 あなたは今後市が重点的に進めるべき施策について、どのようなものをお考えですか。
(ア) (イ) (ウ) の各項目の中からそれぞれ2つまでお答えください。

(ア) 生活環境面で重点的に進めるべき施策

【全体】

生活環境面で重点的に進めるべき施策としては、「緑の保護・育成」が37.1%と最も高く、次いで「駅周辺の整備」が22.2%、「市内循環バスや地下鉄の延伸」が19.1%と続いている。

<図2.3-1：生活環境面で重点的に進めるべき施策>

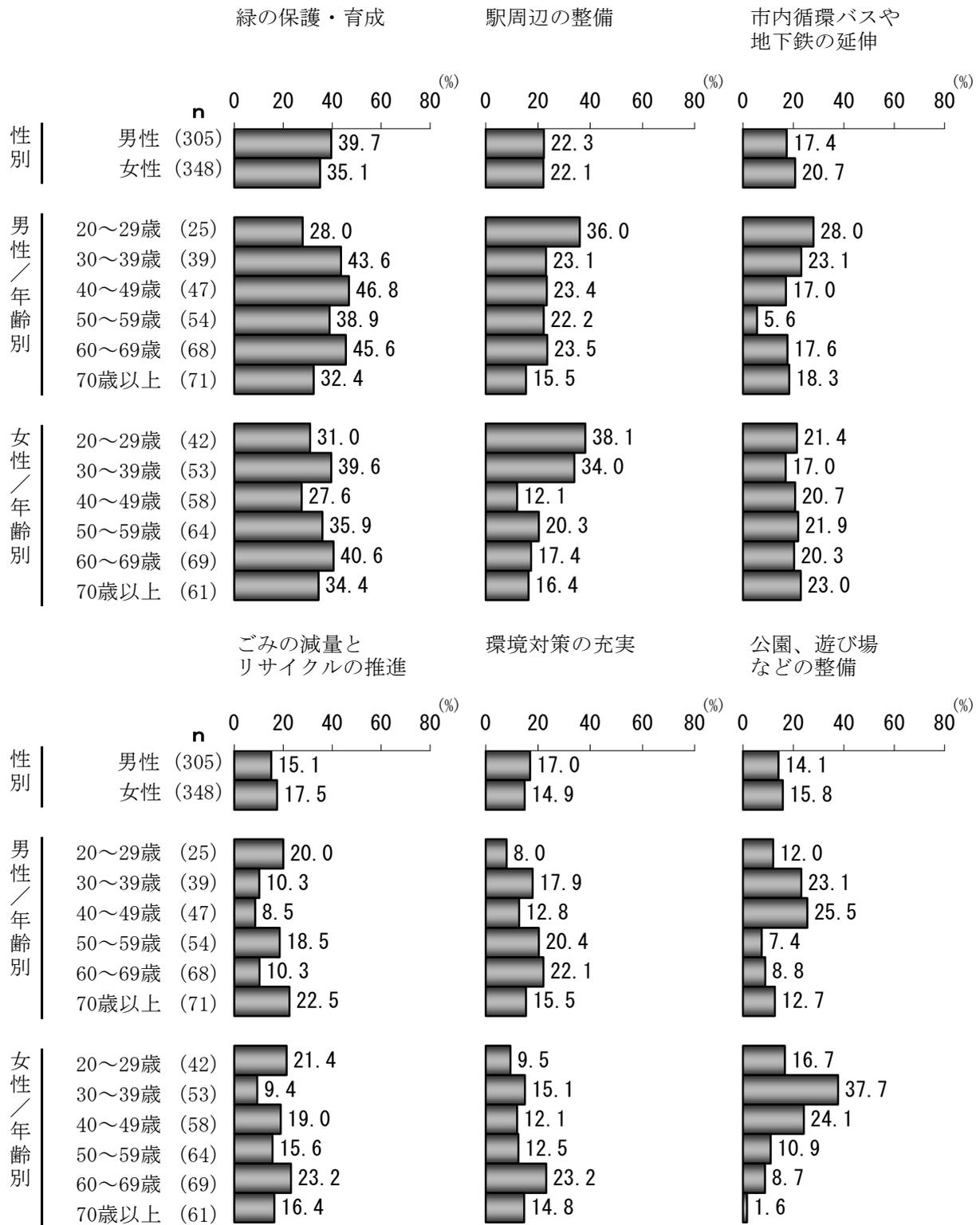


【性別・性／年齢別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「駅周辺の整備」は男性の20歳代(36.0%)と女性の20歳代(38.1%)、30歳代(34.0%)で高くなっている。また、「公園、遊び場などの整備」は女性の30歳代が37.7%と他の性／年齢層に比較して高くなっている。

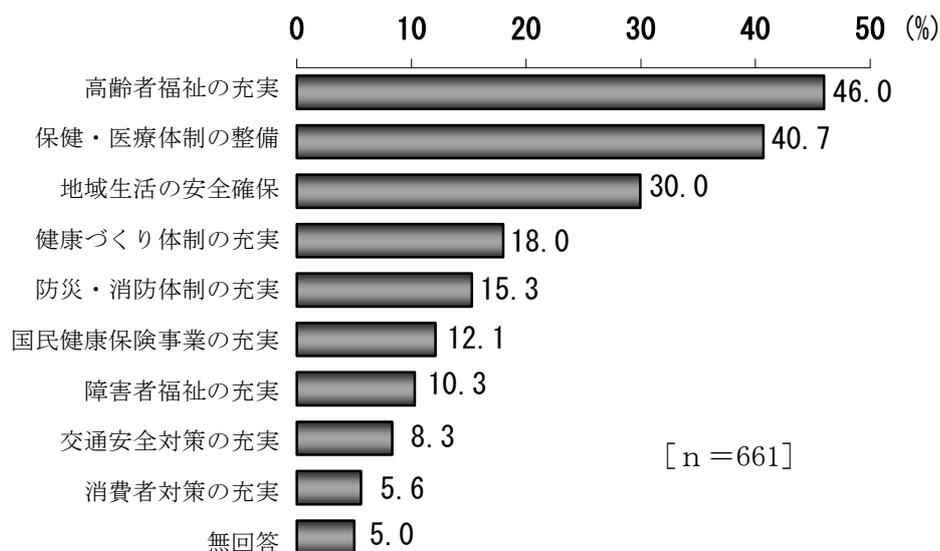
<図 2 3 - 2 : 性別・性/年齢別：上位 6 項目>



(イ)市民へのサービス面で重点的に進めるべき施策**【全体】**

市民へのサービス面で重点的に進めるべき施策としては、「高齢者福祉の充実」が46.0%と最も高く、次いで「保健・医療体制の整備」が40.7%、「地域生活の安全確保」が30.0%と続いている。

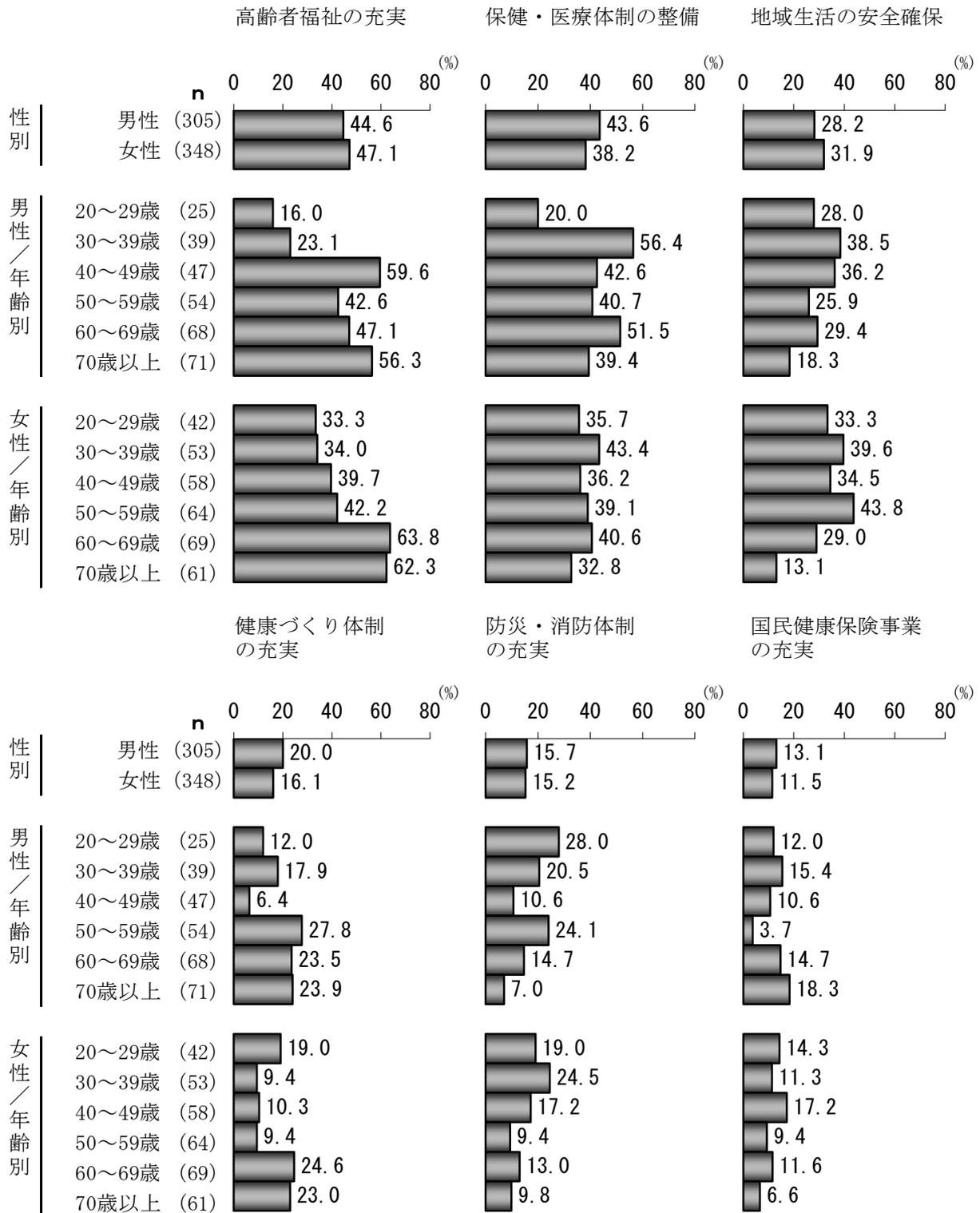
<図23-3：市民へのサービス面で重点的に進めるべき施策>

**【性別・性／年齢別】**

性別では、「保健・医療体制の整備」が男性（43.6%）、女性（38.2%）となっており、男性が女性を5.4ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「高齢者福祉の充実」は男性の40歳代（59.6%）と女性の60歳代（63.8%）、70歳以上（62.3%）で6割前後と高くなっている。また、「保健・医療体制の整備」は男性の30歳代が56.4%と最も高くなっている。

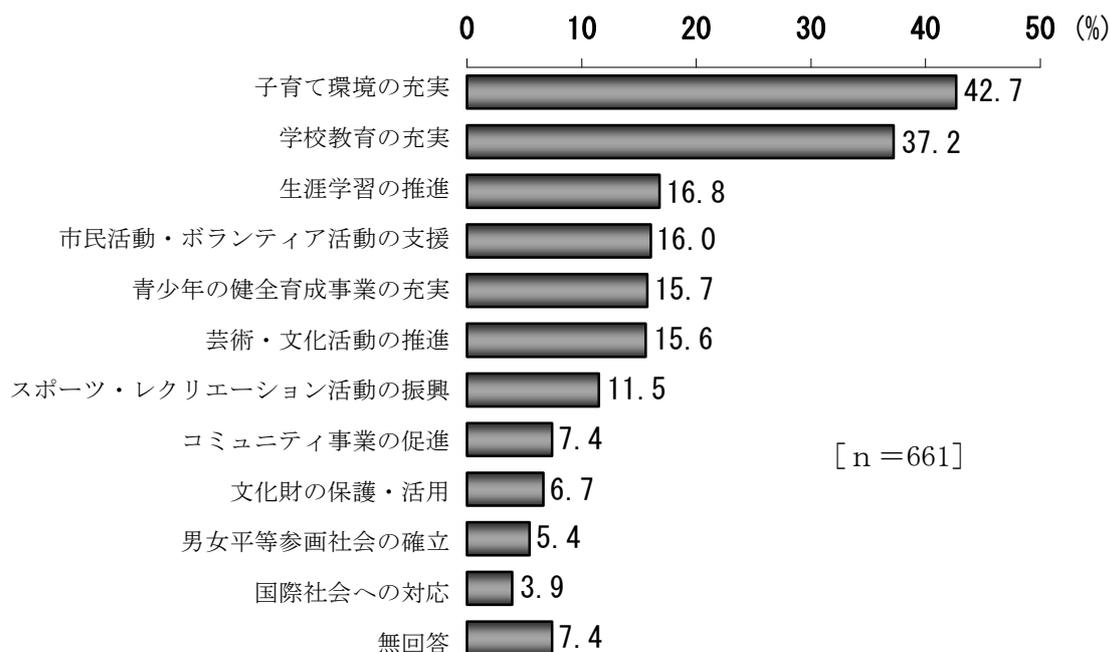
<図 2 3 - 4 : 性別・性/年齢別：上位 6 項目>



(ウ)生涯学習・地域活動面で重点的に進めるべき施策**【全体】**

生涯学習・地域活動面で重点的に進めるべき施策としては、「子育て環境の充実」が42.7%と最も高く、次いで「学校教育の充実」が37.2%となっており、上位2項目が他を大きく引き離している。

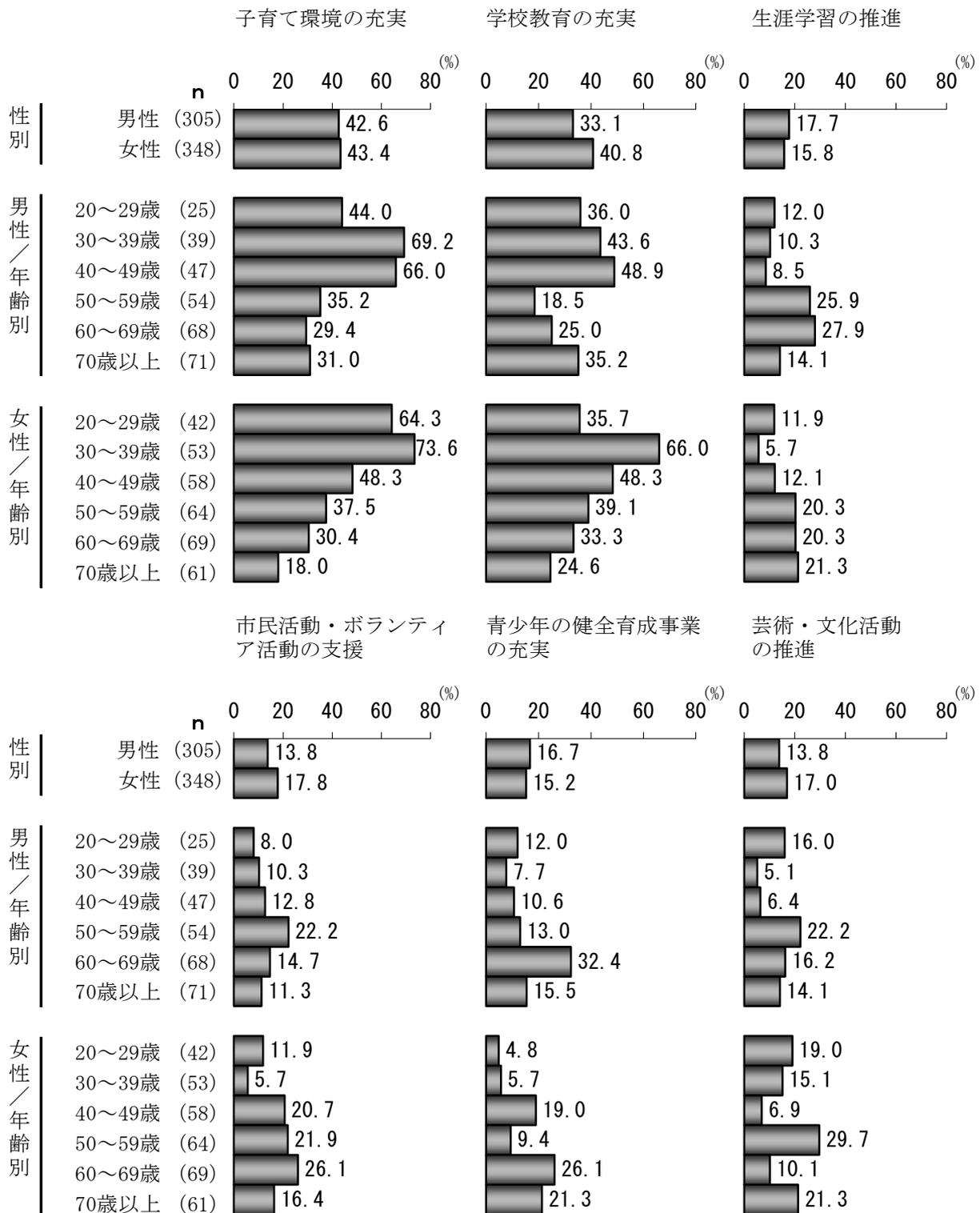
<図23-5：生涯学習・地域活動面で重点的に進めるべき施策>

**【性別・性／年齢別】**

性別で見ると、「学校教育の充実」は女性（40.8%）、男性（33.1%）となっており、女性が男性を7.7ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「子育て環境の充実」は男性の30歳代（69.2%）、40歳代（66.0%）と女性の20歳代（64.3%）、30歳代（73.6%）で6~7割と高くなっている。また、「学校教育の充実」は女性の30歳代が66.0%で最も高くなっている。「青少年の健全育成事業の充実」は男性の60歳代が32.4%で他の年齢層と比較して高くなっている。

<図 2 3 - 6 : 性別・性/年齢別：上位 6 項目>



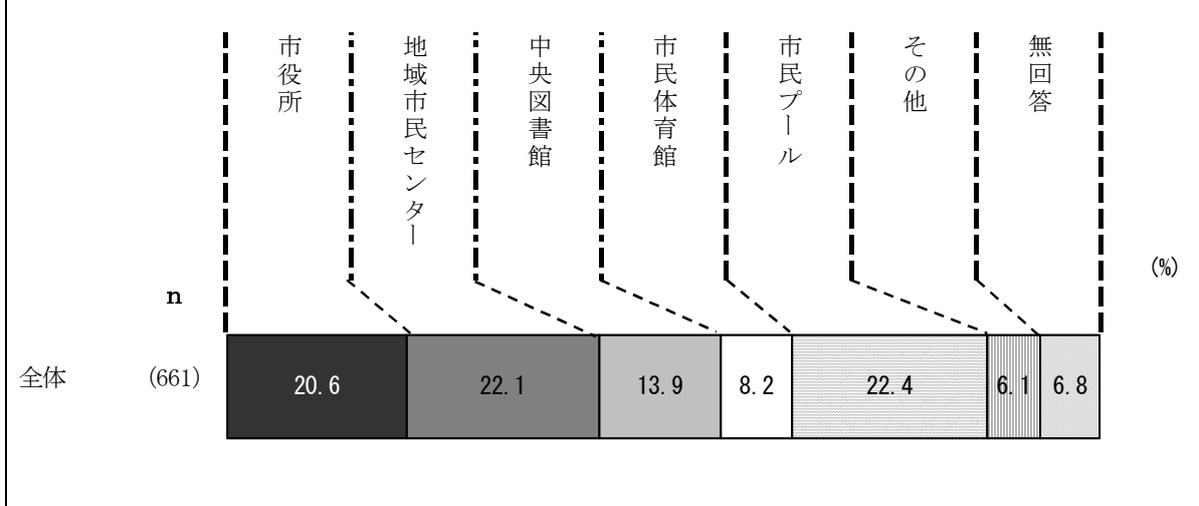
2 4 公共施設

(1) 再整備を望む施設

問37 市では現在、清瀬市民センターの再整備を進めていますが、あなたが今後、再整備を望む施設を、次の中からお答えください。

[n=661]

<図24-1：再整備を望む施設>



【全体】

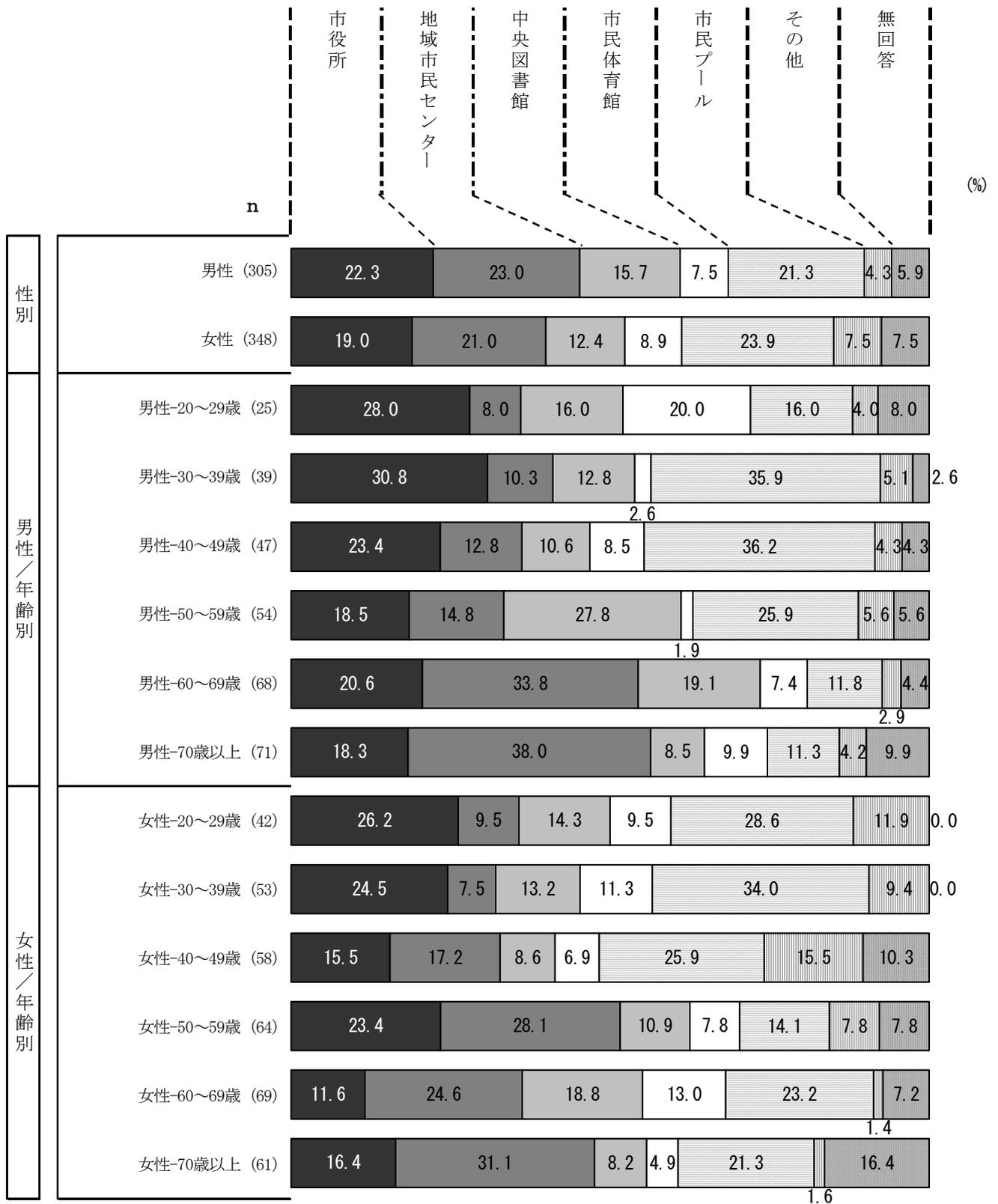
再整備を望む施設としては、「市民プール」が22.4%と最も高く、次いで「地域市民センター」が22.1%、「市役所」が20.6%と続いている。

【性別・性／年齢別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

性／年齢別で見ると、「市民プール」は、男性では30歳代(35.9%)と40歳代(36.2%)が高く、女性においては20歳代(28.6%)と30歳代(34.0%)が高くなっている。また、「地域市民センター」は、男性の60歳代(33.8%)と70歳以上(38.0%)、女性の70歳以上(31.1%)で高く、3割を超えている。

<図 2 4 - 2 : 性別・性/年齢別：上位 6 項目>



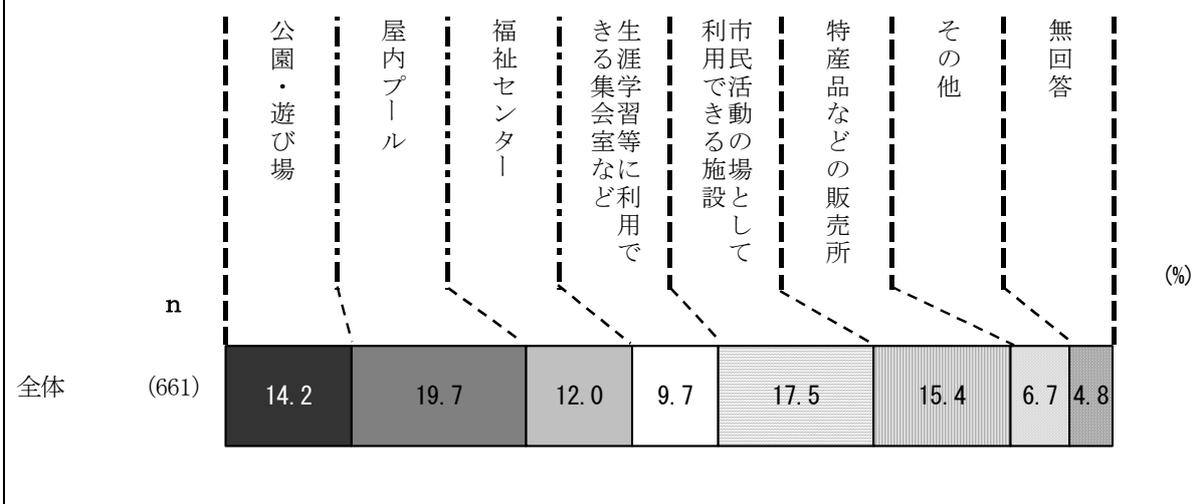
(2) 設置を望む公共施設

問38 あなたは、今後どのような公共施設の設置を望みますか。

次の中からお答えください。

[n=661]

<図24-3：設置を望む公共施設>



【全体】

設置を望む公共施設としては、「屋内プール」が19.7%と最も高く、次いで「市民活動の場として利用できる施設」が17.5%、「特産品などの販売所」が15.4%と続いている。

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「屋内プール」が女性（23.3%）、男性（16.1%）となっており、女性が男性を7.2ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「屋内プール」は、女性の30歳代が43.4%と最も高い。「特産品などの販売所」は女性の50歳代が29.7%であり、他の年齢層に比較して高くなっている。

<図 2 4 - 4 : 性別・性/年齢別>

